

資料紹介

西村天囚日記（種子島西村家所蔵）の解題と翻刻

町 泉寿郎

（解題）

はじめに 本稿は、種子島の西村家に所蔵される西村時彦（一八六五―一九二四、号天囚・碩園）の日記を翻刻し紹介するものである。日記は現在その晩年のものが四冊残されており、西村が大阪を引き上げて東京に移り島津家臨時編輯所の編纂長に任命された大正九年七月一日から六日までの「史館日録」と、大正十一年・十二年・十三年の手帳に書かれたものがある。いずれもごく一部を除いて漢文体で記されている。手帳には、奥付などはないものの、内容から見て宮内省から支給されたものである。

日記の前後の主要事件 日記が書かれた大正後半期の時代背景の説明として、少し時間を遡って記せば、大正七年七～八月に起こった米騒動によって寺内正毅内閣が退陣に追い込まれる（九月二十一日総辞職）。この間に大阪朝日新聞の記事が引金となって白虹事件が起り、村山龍平社長が退任し、代って西村天囚が復権するものの、政府の言論統制に屈した大阪朝日新聞に対する風当たりは厳しくなった。

寺内内閣のあと、立憲政友会の原敬総裁が首班となり政党内閣を組織したが、西村が東京に移った翌年の大正十年十一月四日に原首相が暗殺される。原内閣をそのまま踏襲した高橋是清首相は、立憲政友会をまとめきれずに、大正十一年六月六日

に内閣総辞職に追い込まれる。その後、首班指名を受けた海軍軍人の加藤友三郎は、翌大正十二年八月二十五日に現職のまま病没する。後任には海軍退役軍人・元首相の山本権兵衛が擬せられ、同年九月一日に関東大震災が起こり、西村は震災復興を国民に呼びかける「国民精神作興詔書」（十一月十日渙発）を起草することになった。

同年末から翌大正十三年初にかけて、摂政宮を狙った虎ノ門事件（大正十二年十二月二十七日）や二重橋爆弾事件（大正十三年一月五日）が起こり、第二次山本内閣は総辞職を余儀なくされた。その後任として大正十三年一月七日に清浦奎吾が首相となったが、第十五回衆院議員総選挙の結果、与党政友本党が敗北して六月十日に退陣した。

西村天囚の日常の勤務 西村は、大正九年七月二日に島津公爵家を訪れて、家令代理の松元泰正から島津家臨時編輯所編輯長を囑託する島津忠重侯爵の書面（大正九年六月二十六日付）を交付されている。次いで翌大正十年八月三十日に宮内省から宮内省御用掛（勅任待遇）の辞令を受け取っている。これにともない、大正五年九月から継続してきた京都帝国大学文科大学（文学部）の講師を大正十年八月三十一日に解かれている。大正九・十年の日記はほぼ残っていないので、この間の西村の勤務状況は必ずしも明確でない。

その後の大正十一年一月以降の日記が残っている期間について言えば、島津家臨時編輯所への出勤は「至史局」、或は単に「史局」と記されており、当初は週四日（月・水・木・土）の勤務であったが、大正十一年九月からは週三日（火・木・金）の勤務であったようである。

宮内省御用掛としての宮内省への出勤は、「登省」と記される。初めは週二日（火・金）であったが、大正十一年九月から週三日（月・水・土）に増えている。

ところで、西村の東京における住居は、「東京市外下大崎二三四番地南四号」であった。「下大崎二三四」は袖ヶ崎邸と称した広大な島津公爵邸の番地であり、西村はその南の一画に住んでいた。島津家臨時編輯所も同じく島津公爵邸の一部にあったので、「史局」への通勤は至近であったと言える。

丸ノ内の宮内省への通勤に関しては、特段交通手段に関する記述がないものの、自動車を利用した際には日記にその旨の記述があるので、恐らく品川―東京間を電車に乗って通勤したものと推定される。

その他に、大正十二年に新設された大東文化学院から十一月一日付で教授を嘱託され、大正十三年二月からは毎週金曜の午前中に大東文化学院（この当時は麹町区富士見町に所在）に出講している。

宮内省御用掛の公務―詔勅、誄・墓誌、祝辞等 西村は、宮内省の公式行事には、一月一日の歳旦祭・新年拝賀、一月三日の元始祭、二月十一日の紀元節、春分の日、春季皇霊祭、四月三日の神武天皇祭、四月中旬の観桜会、六月二十五日の皇后陛下誕辰、七月三十日の明示天皇祭、秋分の日、秋季皇霊祭、十月十七日の神嘗祭、十月三十一日の天長節、十一月中旬の観菊会、十一月二十三日の新嘗祭には、大礼服など定められた礼装で列席している。

また、西村が宮内省御用掛の公務として起草している文書には、以下にあげる各種のものが含まれている。

〔詔勅〕最も重要な詔勅としては、大正十一年十月三十日に渙発された「学制頒布五十周年ニ際シ下シ給ヘル勅語」を起草した記事が大正十一年十月十五日条に見える。関東大震災後いち早く、「皇都復興ニ関スル詔書」が九月十二日に渙発されているが、その起草のことは九月七日条に見える。更に、十一月十日に渙発された「国民精神復興ノ詔書」のことは、十月二十一日条に「精神振作詔擬稿成」と見え、十月二十七日条には「訪岡野文相、有修正詔草之囑」と見えて、その成文の過程が窺える。

〔誄〕誄とは貴人の死に際してその死を悼み功績を讃えて奏上する言葉である。その葬儀の時に棺前に賜るので、正確な情報をもとにすみやかに起草する必要がある。日記に見える誄の起草例としては、大隈重信（大正十一年一月十日条）、山縣有朋（大正十一年二月二日条）、樺山資紀（大正十一年二月八日条）、東伏見宮依仁親王（大正十一年六月二十七日条）、伏見宮貞愛親王（大正十二年二月四日条）、加藤友三郎（大正十二年八月二十六日条）があげられる。加藤友三郎首相が八月二十四日に病没した時に西村は宮城県を旅行中であつたが、二十五日朝の地方新聞でこれを知ると、すぐに白根松介宮内大臣秘書官に電報を打ち、夜汽車に乗って帰京。翌二十六日に誄を起草している。

〔墓誌〕墓誌は石や金属などに死者の事蹟を記して墓に埋めるものであり、死者が埋葬される時にできていなければならないので、誄と同様にすみやかに起草する必要がある。なお、墓誌を西村は常に「墓志」と表記している。墓誌を撰文している例としては、山縣有朋（大正十一年二月二日条）、島津男爵（大正十一年十月十四日条）、小牧昌業（大正十一年十月二十六日条）、黒木為禎（大正十二年二月五日条）、伏見宮貞愛親王（大正十二年二月七日条）、北白川宮成久王（大正十二年五月十九日条）、有栖川宮妃慰子（大正十二年六月三十日条）、都築馨六（大正十二年七月六日条）、仲小路廉（大正十三年一月十八日条）、萩野由之（大正十三年二月一日条）、華頂宮博忠王（大正十三年三月十九日条）がある。

西村の師に当たる小牧昌業や東京大学古典講習科時代の同学である萩野由之（国書課前期生）の墓誌は、宮内省御用掛の公務としての撰文ではないと考えられる。

このほか墓誌に関しては、宮内省から委嘱されて『皇族墓誌集』を編集し（大正十二年五月二十三日条）、小牧昌業撰文にかかる岩倉具視と島津久光の神道碑の校訂（大正十二年十二月五日条）に従事している。

なお、宮内省図書頭・帝室博物館長として歿した鷗外森林太郎の死に当たっては、西村は「会送森博士之葬」と記し葬儀に出席しただけである（大正十一年七月十一日条）。

〔墓碑・墓表〕依頼されて私的に撰文した墓碑・墓表の類に関する記事も散見する。愛甲喜春碑（大正十年九月三十日条）先師前田豊山先生碑（大正十年九月三十日条・大正十二年九月十七日条）、伊瀬知好成陸軍中将墓表（大正十一年十月三日条）、高野適齋先生墓碑銘（大正十二年二月十四日条）、藤井右門碑文（大正十二年三月四日条）、牧野岳陽碑銘（大正十二年三月二十一日条）等である。

〔祝辞等〕宮内省御用掛として、さまざまな行事における祝辞等の起草も行ったことが分かる。その事例としては、次のものがあげられる。救世軍病院開院式祝辞（大正十一年二月二十四日条）、学習院祝辞（大正十一年三月二十八日条）、摂政宮英儲歓迎口演（大正十一年四月七日条）、摂政宮台湾行啓令旨（大正十二年三月十日条）、帝国学士院受賞祝辞（大正十二年三月

二十四日条）等である。英儲の歓迎のための口演とは、イギリス皇太子エドワード（八世）が裕仁親王の訪欧に対する答礼として大正十一年四月十二日に訪日した際の歓迎スピーチであり、珍田捨巳東宮太夫と討論し是正して成稿したことも知られる。また摂政宮裕仁親王と久邇宮良子女王とのご成婚（大正十一年九月二十六日条に納采、震災を挟んで、大正十三年一月二十六日条に慶典）にあたっては、諸家から贈られた詩文の編纂を依頼されて、『慶典表牋集』（大正十三年三月二十五日条）の編纂に着手している。

漢文学 大隈重信の薨去（大正十一年一月十日）に際して西村が誄詞を撰文したことは前述の通りであるが、この誄をめぐって一つの事件が起こった。二月十四日条に「大正詩文訳載聖誄頗更改文字、因草一書与日下勺水有所詰難。（大正詩文に聖誄を訳載して頗る文字を更改す。因りて一書を草して日下勺水に与へて、詰難する所有り。）」という記載がある。漢学者の日下寛（一八五二―一九二六、号勺水）は西村の旧知であるが、日下が大隈重信の誄を漢文体に修文して『大正詩文』（十二帙二号所収）に発表したところ、西村はその訳文に強く批判したことが分かる。この時に日下を難詰した一書「与日下勺水書」は、『碩園先生遺集』第二に収録されており、それによれば西村は自分が起草した駢文体の誄を日下が散文体に改めて漢訳した点に異論を唱えたのである。

駢文に関しては、『史館日録』大正九年七月五日条に、「読孝明天皇卷五弘化元年三月御元服詔書、駢文頗佳」ともあり、これらのことから類推して、西村は天皇の詔勅には格調高い駢文体こそがふさわしいと考えていたのではないかと思う。

また、大正十一年の三月から五月にかけて、静嘉堂において『文心雕龍』を校正した記事も見えている（三月二十九日、四月六日・十三日・十九日、五月三日・六日の条）。この時期になぜ西村が『文心雕龍』を校正するのか、その理由は分からないが、内藤湖南による敦煌本文心雕龍の日本将来や鈴木虎雄による「敦煌本文心雕龍校勘記」（一九二六年）などと関連があるかもしれない。

結社 日記には西村が所属、あるいは関わりをもった各種の結社に関する記事も見えるので、列举しておこう。

（以文会）以文会は、元来は安井息軒の門人による漢作文結社であり、月例の輪番制で社員の自宅等を会場として文を作る会が開催されていた。西村は大正十一年四月から同十三年三月にかけてよく出席しており、二度自宅を会場にして開催している。開催日時と当番は次の通りである。大正十一年四月八日―牧野謙次郎、同五月十三日―館森袖海、同六月十日―小牧昌業、同七月八日―安井小太郎、同九月二十三日―西村時彦、同十月二十三日―東京帝大山上御殿、同十一月十一日―不明、同十二月九日―名取某、大正十二年四月十四日―安井小太郎、同五月十二日―宮内省、同七月十四日―細田謙蔵、同十月二十七日―佐藤六石、同十一月十七日―児島献吉郎、同十二月十五日―西村欠席、大正十三年一月十二日―不明、同三月十八日―西村時彦。三州倶楽部三州倶楽部とは、大正三年の桜島大噴火の際に、在京の有志が義援金を醸出して発足した組織であり、三州とは薩摩・大隅・日向を指し、三州の歴史文化を学び発信することを目的とする会であった。西村は大正十二年五月二十三日に三州倶楽部において「薩摩文化」と題する講演を行っている。

（斯文会）斯文会は大正七年に従来の斯文学会・孔子祭典会・漢文学会・研経会などの組織を統合して設立された。斯文会の設立時には西村は大阪在住であるが、古典講習科同窓の市村瓚次郎からの依頼に対してその趣旨に賛同し、斯文会と懷徳堂が東西呼应して実効を上げることが期待し、設立時から常議員に名を連ねている（『斯文六十年史』）。日記からは西村がしばしば斯文会の会合に出席し、大正十一年六月二十一日には「辞章学之将来」を講演していることが確認できる。なお、この時期の斯文会の会合は、湯島聖堂ではなく東京帝国大学山上御殿を会場として開催されており、関東大震災によって東京大学が焼失した後は、事務局の置かれていた華族会館内で開催されることもあった（大正十三年二月十七日条）。

（重野安繹遺稿整理委員会）大正十一年三月十九日条に「先師遺稿整理委員会」とあり、その名の通り重野安繹遺稿の整理作業のための組織である。恐らく大正十五年六月松雲堂書店刊行の『成斎先生遺稿』十五巻となって結実したものに相当する。

（双桂同窓会）双桂精舎あるいは双桂楼は、西村の古典講習科時代の師にあたる漢学者島田重礼（号篁村）で書室号であるから、島田重礼門下の同窓会に参加したことが分かる（大正十一年十一月二十五日条）。

講読 西村は大東文化学院などへの出講以外に、定期的に漢籍の講読を行っていた。次のような記録を拾うことができる。

(宮内省) 大正十二年二月二十四日条に「遣池田生於宮内省、送致唐鑑・名臣言行録」とあり、宮内省に宛てて『唐鑑』と『名臣言行録』を送致し、その後に『唐鑑』の講読を大正十二年四月から翌十三年四月にかけて、十二回にわたって行っている(大正十二年四月十八日／十九日、五月三日／十七日、六月七日／二十二日、七月五日、大正十三年三月四日／十八日、四月一日／十五日／十八日)。

また同じく宮内省において、『論語』を大正十三年三月から四月にかけて八回講読している(大正十三年三月十二日／十九日／二十六日、四月二日／九日／十六日／二十三日／三十日)。

宮内省内部の有志者を相手に行った講読であったかと推測されるが、なぜそのテキストに宋・范祖禹『唐鑑』が選ばれたのかなど、詳細は後考に俟つ。

(島津家臨時編輯所) 西村はまた島津公爵家の子弟に対して「侍読」を行った(大正十三年四月十四日／十八日／二十一日／二十五日／二十八日、五月五日)。島津忠重公爵の長男忠秀(一九一二～一九九六)のことと推定され、『孝経』『日本外史』を講じたとのことである(有馬純彦「晩年の碩園先生」)。

読書 読書については、次のような記事が見出せる。

(自宅) 欧陽脩『居士集』(大正十一年三月四日／五日／十三日)、『詩経』大雅假楽篇(大正十二年一月二日)、『史記』屈原伝(大正十三年二月二十四日)、『離騷』(大正十三年四月五日)、『楚辭』(大正十三年四月二十三日)。

(宮内省) 林鶯峰『鶯峯集』(大正十一年五月十二日／十六日／十九日)、林鳳岡『鳳岡集』(大正十一年五月二十三日／二十六日)、朱彝尊『曝書亭集』(大正十一年七月七日)。

古書購入 西村は古典籍や書画の収集に比較的熱心であったので、古書購入に関する記事も散見する。購入先ごとの主要な書籍を挙げておこう。

〔寺田望南〕寺田望南（一八四九～一九二七）は薩摩出身で、その使用した蔵書印「読杜草堂」とともに、収書家として知られる。西村はしばしば寺田からその蔵書を購入していることが分かる。「賈似道本淳化閣帖」（大正十一年五月四日条）、「活版尚書」（大正十一年八月二日条）、「寺田翁携文中子而來訪」（大正十二年二月二日条）、「午前訪寺田翁買旧書」（大正十二年十二月十四日）。「松雲堂」松雲堂は大阪の鹿田静七と神田神保町の松雲堂が混在している。「古活版周易・尚書・礼記、自松雲堂至。値百八十金」（大正十二年一月三十日条）は大阪・松雲堂から古活字版が届けられたことを示し、「訪永田君至松雲堂」（大正十二年一月九日条）は実業家永田磐舟と鹿田松雲堂に出かけたことを示すが、「書林松雲堂至」（大正十一年十二月十日条）、「神田松雲堂至」（大正十二年二月四日条）、「野田松雲堂至」（大正十二年二月十八日条）等の記述は神保町の松雲堂を指している。

〔原田博文堂〕博文堂は元忍藩士の原田庄左衛門（号大観）が創設した書店で、庄左衛門の実弟に写真家小川一真と小林忠次郎があり、庄左衛門の長男が原田悟朗である。原田の名は頻出し、西村との親密な関係を窺わせる。

〔文求堂〕「買韓柳文及戴東原集」（大正十一年四月二十九日条）。

〔浅倉屋〕「至浅倉屋購尚書」（大正十一年九月二十二日条）。

〔神田古書店〕「神田書林歴観、購楓軒文集」（大正十一年十一月二十五日条）。「購多紀氏遺書」（大正十三年三月二十三日条）。多紀氏とは江戸幕府医官で、幕府医学館を主宰した一族であり、古医書の文献研究に成果を上げた。大正十三年三月九日条に「訪西原城官寺、展桂山・柳沢・菫庭等墓」とあり、西村が多紀氏一族に関心を持っていたことを窺わせる。

〔晚翠軒〕「購百衲本史記」（大正十三年三月二十八日条）。

〔その他〕「購琉球国志略及古文尚書冤詞平議」（大正十一年二月二十一日条）。

健康・身体 西村は六尺豊かな大男で、健康家で知られたが、日記中には体調不良に関する記事も散見される。

〔不眠〕「此夜不能眠」（大正十一年六月九日条）、「投宿坂之下海月旅館。…不能熟睡。」（大正十二年二月十二日条）、「土屋大夢至一宿。此夜不能睡、一喝隣客。」（大正十二年二月十四日条）、「忡々不能寐」（大正十二年九月二十四日）。

（病臥）大正十一年二月十五日～二十二日（鼻炎）、大正十二年一月十二日～二月十一日（感冒）。

また医師としては、篠原恵、鮫島、馬場、増本、岡本格、今井眼科、古島齒科、久木田、篠崎医生らの名が見えている。

旅行 日記中に見える旅行の記事には、次のものがあげられる。大阪は懷徳堂に関する仕事が残っているので、定期的に訪問しており、また大阪滞在中に京都に回って内藤湖南・狩野直喜らに面会することが多い。

（大阪）大正十一年一月十三日～十四日の大阪滞在中は、「午前九時至大阪旧宅」とあり、北区松が枝町の住宅を使用しているようだ。大正十一年十月五日～十日の滞在は「懷徳堂師儒祭典」の挙行が主目的である。大正十二年一月八日～十三日の滞在は幸子夫人を同伴し、大阪では後醍醐院廬山宅に宿泊した。大正十二年四月四日～五日は、島津忠重公爵が英国留学から帰国するのを迎えることが主目的の短い滞在であった。大正十二年八月三日～七日の滞在は、通常のように東京から大阪に向かったのではなく、後述する鹿児島訪問の帰途に大阪に立ち寄ったものであり、この時は後醍醐院廬山と和歌山県境の天見村（現河内長野市南部）を訪れて相宅宰藏の古月楼に一泊し、翌日大阪に戻って懷徳堂會議に臨んでいる。大正十二年十一月二日～四日の滞在は、懷徳堂堂友会発会式への参加が主目的である。

（熱海）西村は鹿児島出身の元老松方正義と長年にわたり近い関係にあり、大阪時代にもしばしば鎌倉の松方邸を訪問しているが、東京に移ってから頻繁に面会している。大正十二年三月十一日～十二日には書家梅園方竹とともに熱海水月荘に松方正義を訪問している。

（鹿児島）大正十二年七月二十九日から八月三日にかけて、西村は鹿児島を訪れているが、この鹿児島行きは急に決まったことらしく、七月二十六日条に「島津公嘱往鹿児島、因電話宮内省請暇」とあり、島津忠重公爵からの委嘱を受けて直ぐに電話で宮内省に休暇を届け出、翌二十七日の夜汽車で東京を立っている。同年五月には島津家歴代の宝物を収めた尚古集成館が開館しており、西村の出張はこれと関係があるのかもしれないが、鹿児島に到着後すぐに尚古集成館を観覧しているものの、この時間限りであり、これが主目的とは考えにくい。三十日にもと島津家の別荘があった温泉地として知られる榮之尾（現霧島市）

に種子島男爵、霧島栄之尾を訪れて講演し、一泊して鹿児島に戻っているので、栄之尾での講演が主目的ではなかったかと推測される。その後の西村は、興国寺（伊地知季安墓所）、南林寺（愛甲喜春墓所）、福昌寺（島津家墓所）等に訪れており、薩南学に関する西村の関心が看取される。二十九日に種子島守時男爵を訪問し、鹿児島を離れる前夜には種子島邸で晚餐にまねかれており、種子島男爵家と良好な関係にあったことが分かる。

（仙台）大正十二年八月二十一日～二十五日には、東北帝国大学法文学部の教授に着任したばかりの武内義雄が東京の西村のもとに至り、同日午後に武内に伴われてその案内で仙台に遊んだ。仙台では古典講習科時代からの親友瀧川亀太郎（第二高等学校教授）が出迎え、瀧川宅、武内宅でそれぞれ一泊し、二十四日に中尊寺、松島、雄島などを遊覧。二十五日には瑞巖寺を見た後、塩竈に赴く船中で河北新報を披いて加藤友三郎首相の病没を知ったため、すぐに旅行を中断して同日午後五時五十分発の汽車で帰京。翌日その足で宮内省に出勤して詠を起草している。

（埼玉）大正十三年四月六日に西村は埼玉県の仏子円照寺や飯能山に日帰りの小旅行をした。円照寺で西村は建長頃の古い板碑数基を見つけて、翌々八日に木崎愛吉を伴って円照寺を再訪して、拓本を採るなどした（有馬純彦「晩年の碩園先生」）。

外食の記事 西村は自他ともに認める美食家・健啖家であり、日記中にも外食の記事は極めて多く、また自宅に知人を招いて宴会を催すことも頻繁であった。飲食店と訪問回数を拾えば、概ね次の通りである。

（東京）東洋軒十六回、上野精養軒十一回、東京駅食堂六回、富士見軒四回、（新橋）橋善四回、鮫洲川崎屋四回、帝国ホテル三回、燕楽軒一回、甲陽園一回、竹葉支店一回、品川荒井屋一回、築地三野田屋一回、浪花屋一回。

（大阪）鶴屋六回。

（京都）左阿弥二回。

家族の記事 日記からは、妻を愛し、母に孝養を尽くし、弟妹・子孫・親類に気を配る西村の家庭人としての側面もよくうかがえる。再婚の妻幸子のことは「内子」と記され、その回数は一二回にも及ぶ。妻と外食することも珍しくなく、また夕

食後はしばしば妻と散歩に出掛けている。長男時教が孫時紹を連れてくると、孫を連れて近くを散歩することもあった（大正十二年五月十八日条）。

母浅子の記事も三十九回を数え、「家慈」を奉じて自動車を九段から上野に走らせて花見をした記述（大正十一年四月一日条）や長男時教が静岡県小山に住居を構えて、母浅子が時教宅に滞在した時に西村も時教宅を訪れて、「奉拝家慈、児孫団欒、樂不可言」と記し、家族皆がそろった団欒の楽しさを言葉に尽くせないと言っている（大正十二年八月十四日条）。

親戚の西村時直（松戸在住、妻琴子）や従弟の高崎能樹（日本基督教会牧師）の記事など、親類に関する記事も少なくない。**注目すべき記事** 西村日記のなかで、大正十二年九月一日の関東大震災はやはり大きな出来事であった。「訛言鮮人來襲、老少皆集邸園。予亦奉家慈登山。」（九月二日条）、「謠言続出、自警団起。」（九月三日条）などの記事も見えている。これとともに注目すべきは、震災直前の八月三十日に「此日借編輯所文庫、格納藏書。掃除書樓。」とあり、西村が自宅の藏書を島津家臨時編輯所の書庫を借りて収納していたことが分かる。

また三十一日には、「予自奉職内廷二年于茲。歲月逾邁、自愧無功。当竭誠策駑、以図涓埃之報也。（予職を内廷に奉じてより茲に二年なり。歲月逾々邁き、自ら功なきを愧づ。まさに誠を竭くし駑に策して、以て涓埃の報を図るべきなり。）」という感慨を漏らしている。この種の感慨は日記中にこの他にほとんど見出せない珍しいものである。宮内省御用掛に着任してちょうど二年に当たる日、それは奇しくも大震災前夜に当たっていたが、西村はあらためて職務に精励することを自ら期した。したがって、大震災後に起草されることになった「皇都復興ニ関スル詔書」（九月十二日渙発）、「国民精神作興ノ詔書」（十一月十日渙発）は、西村が自ら期するところの渾身の文であつたに違いないことが分かる。

頻出する人物 最後に、西村日記に頻出する人物について簡単に紹介しておきたい（掲出は生年順とした）。

松方 正義（一八三五～一九二四）号海東、内大臣、侯爵から公爵に昇叙。

河内 礼蔵（一八六二～一九二七）種子島出身、陸軍中将。

永田 仁助（一八六三～一九二七）号磐舟、大阪の実業家、藤沢南岳門、懷徳堂復興に尽力。

土屋 元作（一八六六～一九三二）号大夢、豊後日出出身、様々な職に就き、渡米、帰国後新聞記者。

弓削田精一（一八七〇～一九三七）号秋江、もと東京朝日新聞記者、政友会政務調査会に所属、天囚の養女の婿。

喜多 貞吉（一八七一～？）号橘園、紀州出身、信夫恕軒門、漢詩人。

後醍醐院廬山（一八七二～一九三二）名正六、大阪朝日新聞記者、男良正。

梅園 良正（？～？）号方竹、讃岐出身、書家、宮内省秘書課に奉職。

瀧 精一（一八七三～一九四五）号節堂、瀧和亭男、美術史家、東京帝大教授、『国華』編集。

八板 千尋（？～？）大阪の実業家。

田中 柳江（？～？）日本画家。

漢学者・東洋学者には、次のような人物が見出せる。

小牧 昌業（一八四三～一九二二）号桜泉、薩摩出身。

日下 勺水（一八五二～一九二六）名寛、字士栗、下総出身、川田剛・重野安繹らに学ぶ。

林 泰輔（一八五四～一九二二）号進斎、字浩卿、下総出身、古典講習科漢書課前期の同窓、東京高師教授。

安井小太郎（一八五八～一九三八）号朴堂、安井息軒の外孫、古典講習科国書課前期中退の先輩、第一高等学校教授。

萩野 由之（一八六〇～一九二四）号和庵、字礼卿、佐渡出身、古典講習科国書課前期の先輩、東京帝大国史教授。

市村瓚次郎（一八六四～一九四七）号器堂、字圭卿、常陸出身、古典講習科漢書課前期の同窓、東京帝大東洋史教授。

岡田 正之（一八六四～一九二七）号劍西、字君格、富山出身、古典講習科漢書課前期の同窓、学習院教授。

瀧川亀太郎（一八六五～一九四六）号君山、字資言、松江出身、古典講習科漢書課前期の同窓、第二高等学校教授。

島田 鈞一（一八六六～一九三七）島田篁村の長男、古典講習科漢書課後期の後輩、第一高等学校教授・東京文理科大学教授。

児島献吉郎（一八六六～一九三一）号星江、岡山出身、古典講習科漢書課後期の後輩、東京高師教授・京城帝大教授。

内藤虎次郎（一八六六～一九三四）号湖南、字炳卿、秋田出身、新聞記者、京都帝大教授。

服部宇之吉（一八六七～一九三九）号随軒、福島出身、帝大哲学科卒、東京帝大中哲教授。

狩野 直喜（一八六八～一九四七）号君山、字子温、熊本出身、帝大漢学科卒、京都帝大教授。

松山 直蔵（一八七二～一九二七）号春城、字子方、播磨出身、東京帝大漢学科卒、広島高師教授・重建懷徳堂初代教授。

塩谷 温（一八七八～一九六二）号節山、塩谷時敏の男、東京帝大中文教授。

川田 瑞穂（一八七九～一九五二）号雪山、高知出身、大東文化学院助教授・早稲田大学教授。

石濱純太郎（一八八八～一八六八）大阪出身、東京帝大中文卒、大阪外語選科卒、関西大学教授。

武内 義雄（一八八六～一九六六）字宜卿、三重出身、京都帝大中哲卒、東北帝大法文学部教授。

池内 宏（一八七八～一九五二）東京帝大史学科卒、東京帝大東洋史教授。

まとめ 西村天因晩年三年間の日記からは、週日の西村がほぼ毎日、宮内省と島津家臨時編輯所に出かけていることが分かる。宮内省御用掛としては、宮中行事に出席するほか、詔書や顕官が死去した際の誄や墓誌、また各種の「祝辞」等を起草している。関東大震災後に起草した「皇都復興ニ関スル詔書」「国民精神作興ノ詔書」は渾身の作であった。宮内省の公務として起草した漢文・和文の各種文章は『碩園先生遺集』には収録されず、一部が原稿として西村家に伝えられるにとどまる。以文会・三州倶楽部・斯文会・懷徳堂などへの参加、静嘉堂文庫における『文心雕龍』校正、寺田望南その他の書肆からの古書購入も記されている。さまざまな知友との会食・招宴が極めて多く記録されるほか、家庭人としての記事も豊富である。西村の学事・文事を知る個人資料だけでなく、政治史・社会史の資料として興味深い内容である。

（底本の書誌と翻刻凡例）

一、「史館日録」は表紙外題に『島津史館録』（縦二八・二糎、横二一・〇糎）とある冊子の一部であり、半丁一〇行・左右双辺・黒口・双鱼尾の用箋八丁に西村自身により墨書されている。

一、大正十一年・十二年・十三年の手帳は、寸法が縦一二・四糎、横七・四糎の縦型のものであり、右上↓右下↓左上↓左下の順に各頁四日分記すようになっている。日記の後に、白紙頁が続き、その後に各皇族の情報、年中恒例儀式祭典心得、宮内官大礼服小礼服供奉服用規程、宮中席次、各国大使館公使館所在、締盟各国祝日表、宮内職員勲章褒賞記章佩用規程、宮内官官等俸給令、宮内官病氣不参又ハ旅行請暇ノ場合ニ於ケル心得、（関係機関）電話番号などを附録している。日記の本文は、西村自身により墨書（一部に鉛筆書きを含む）されている。

一、手帳の翻刻に当たっては、年月日・曜日・宮中行儀・特定の干支・節句など印字されている文字はゴチック体で記した。

一、墨書と鉛筆書きは区別せず、全て明朝体で記した。

一、漢字は底本の用字を尊重しつつ、常用漢字体を基本とし印刷標準字体で記した。

一、底本の行詰め・字詰めは再現しなかった。

一、読みやすさを考慮して、句読点を適宜補った。

(翻刻)

史館日録

○大正九年七月一日 午後七時五十分発大阪赴東京。二日午前九時到東京。弓削田夫妻・高崎能樹三人出迎。乃入袖崎寓楼、訪島津公爵邸、家令代理松元泰正、交付公爵囑託書。

文学博士西村時彦

編纂長ヲ囑託ス

大正九年六月

姓名之下無敬称、似未尽礼、然不敢示人也。此日下午至編輯所、以与小牧総裁有約也。総裁已在焉、与斎藤編纂員三人会商聘用所員。四時退出。此日内子与弓削田妹及能樹至銀座、購買器物。点灯後帰寓。夜弓削田義弟来。

○三日 早浴。八時至史館。斎藤云、嘗在維新史料局者、為中央大学所羅致、日比谷図書館員、有応聘之意云々。是夜光吉子大招飲于偕樂園、田中柳江至。

四日 早浴。晋謁島津公、表敬意焉。尋訪田中柳江于市谷谷町九三寓居。促佳墨而帰、途与大久保君相遇、立談少時、途次訪小牧先生。下午浄書三田臨幸記、熱甚、汗流湿統。内子無食氣。過雨雷鳴。

五日月曜 早浴。内子中暑臥蓐。八時半至史局、読孝明天

皇卷五弘化元年三月御元服詔書、駢文頗佳。

卷十一弘化三年八月条。

二十九日壬卯異国船渡来之状聞于京師。因降海防於幕府。

四月五日英仏来琉球。閏五月廿七日米船来浦賀。

是蓋維新史開卷第一也。

卷十四弘化四年三月九日學習所成、是日行開講式。

論語古義 勘解由小路前中納言 臨期不参

御注孝經 東坊城宰相(按聡長也)

大学 寺嶋丹後介源天祐

孟子 牧善輔原輓

中庸 大澤雅五郎藤原敬邁

書經 中沼了三藤原之舜

詩經 古注 岡田六藏源龜

学則 履聖人之至道 崇皇国之懿風

不読聖經何以修身 不通国典何以養正

明辨之 務行之

卷十六弘化四年四月二十五日岩清水臨時祭、以藤原定

祥為勅使、特以外艦後來之事祈四海靜謐。石清水臨時

祭宣命草写云、飛簾風^乎起^志陽候浪^乎揚^天速^尔吹放^知追退^計

攘給^比除給^比四海無異^久天下靜謐云々

此日小牧先生托梅園君軫交手書。田中柳江來訪、見贈团扇

五把、以金泥画竹。

六日火曜 早浴。午前八時至史館、閱孝明天皇紀。

弘化四年十月二十日、御生母正五位、正五位下藤原和

子を従三位に叙す（卷二十）

正五位下藤原朝臣雅子

右可従三位

中務幸受恩寵益表淑質、功劳多于先朝、慈愛深于今日、

宣下褒賞式申、榮秩可依、前件之者施行。

嘉永元年二月改弘化五年為嘉永元年詔書四六（卷

二十三卷）

八月四日今避皇祖以下三代御諱、修文減画。兼 惠

統

（按御諱減画之制、至明治正月廢之。六年三月許雖御諱、

非熟字者、人民用之。

伝奏 武家伝奏於所司代役邸、授血判誓書於幕府。

年号出典

嘉永 宋書曰、思皇享多祐、嘉樂永無央。

万延 後漢書曰、豐千億之子孫、歷万載而永延。

史菅原以長

文久 史記曰、文式並用、長久之未知也。

明治 孔子家語曰、長聡明治五氣設五量、撫万民度四方。

周易曰、聖人南面聽天下、嚮明而治。

荀子曰、上宣明則下治辨矣。（菅原長照）

十月十九日以特旨贈太政大臣正一位於贈従二位權大納

言徳川広忠贈内大臣正二位徳川家基賜勅号於広忠曰成

烈院広忠清康長子、天文十八年三年^下死、時年二十四。家基為家

治世子、安永八年二月薨、年十八。

按有幕府所強請也。

嘉永二年二月二十三日講国書於學習院、尋賜勅額（卷

三十三）令義解 日本紀

五月二十日召近臣等於御前輪読国書漢籍、後以辰巳之

日為例。辰日漢籍、巳日和書（卷三十四）、按、漢一

十八史略・貞觀政要・史記・左氏伝、和—江次第・日

本書紀・続日本紀・日本後記・古事記。

白銀一枚四十三匁之稱、四十三匁為今七十一錢

嘉永三年二月四日丁卯丁祭ヲ學習院に行ひ論義ヲ復ス
(卷三十七)

十哲御屏風 宸翰 聖像 宅摩筆 顔子 曾子

以上被渡于學習院。

上丁供物

籩 十

堅塩用焼塩 乾魚用腊 乾棗 栗黄 榛子人代榲桲

菱人代呉桃 黄人代柑子 鹿脯代堅魚 白餅 黒餅

豆 十

韭菹 醯醢 代字仁 菁菹 鹿醢 代雉 芹菹 兔醢 代

鴨

芽菹 脾折菹 代鮓鰯 豚胎代蒸鮑 魚醢 雜魚楚割

簋二 稷飯 黍飯

簠二 稻飯 梁飯 以上盛幡枝土器

鉶三 大羹 代雉

銅 肉羹 代鮑 右各盛窪土器

俎三 三牲 代鯉 鮓 鯛

尊疊四 代陶瓶子

祝文

維嘉永三年歲次庚戌二月甲子朔四日丁卯天子謹遣學習
院学頭菅原朝臣聡長、敢昭告于先聖文宣王云々、以下
如延喜式。

(菅葉)

四月八日頻年外国船辺海ニ出沒するを以て七社七寺に
仰せて令祈国家安寧、尋諭旨幕府、益嚴其警戒。(卷
三十八)

示羊記云、蜜船屢見海上、今年三月又見東海、旁世上
不靜謐云々。

嘉永四年三月十五日壬寅、詔崇贈正三位和氣清麻呂
を護国大明神授正一位宣命使詣高尾山祠宣詔旨(卷
四十一)

嘉永六年六月十五日、幕府申北亞米利加軍艦来航浦賀状、
因祈禳之七社七寺(卷四十六)

二十四日、関白藤原政通鷹司請退職、以外患之事不聴。

七月十二日、幕府進奏北亞米利加合衆国大統領書翰訳
文。波爾理

八月十五日丁亥、石清水放生会、以異船来航之事、特

祈国家安寧。（卷四十七）

十七日己丑、幕府申魯西亞国軍艦来長崎之状、尋進奏呈書諷文。（同上）ポーチャチン

九月十一日癸亥、神宮例幣使発遣如例、以外患之事、特祈四海靜謐。

十月二十三日甲午、以権大納言兼右近衛大将徳川家祥即家定、補征夷大將軍為内大臣、隨身・兵杖・牛車宣下等如旧例。尋遣伝奏権大納言藤原実万三条・前権大納言藤原俊明坊城・等於江戸城伝宣勅旨、且以外交之事諭示宸憂之状。（卷四八）

十一月二十三日甲子、仰熱田宮以下畿外十社令禳外患、尋神宮伊雜及畿内十九社亦祈之。

畿外十社 尾熱田 下総香取 常鹿島 信州諏訪 雲州

杵築大社 紀州熊野 筑前筥崎 日宗像 日香椎 豊

前宇佐

十九社 石清水 賀茂下上 松尾 平野 稻荷 春日

大原野 大神 石上 大和 広瀬 住吉 日吉 梅

宮吉田 広田 祇園 北野 貴布禰

安政元年甲寅二月九日戊寅、祈禳外患。（卷四十九）

十三日、以外患之事問近畿警備之状於所司代。聡長卿記云、十九日大将来談、亜墨利加国船雖在浦賀、自然可廻若州浦不可量、甚可恐也。万一之時、可有御立退旨、所司代申之間、其心得可然云々。甚不好事候云々。

按、今年九月廿三日魯西亞船入大阪近海、京師戒飭、幕府更命彦根藩守京師。先是、京都町奉行浅野中務少輔長祥・岡部備後守豊常意見書、論用本願寺僧兵。（浅野梅堂雜記）

二月二十二日、神宮以下二十二社及伊雜宮以下十一社祈禳外患、尋三十三社有臨時御祈。（卷五十）

三月十一日、以叡願之事、講神宮御法楽和樂於小御所。

寄神祝言

ことの葉のたむけうけてよ国民の

ゆたけきことを神もおもは、（公宴御会享）

嘉永七年六月十一日 柳（神宮御法楽）

打なひく柳のいとすなほなる姿にならへ人の心は

同年後七月十一日 磯小鳥

風絶て波こゆるきの磯小鳥しつかなる世をつくる声か

も

安政五年七月十一日 述懷

神こゝるいかにあらんと位山

おろかなる身の居るもくるしき

文久二年十一月十一日 寄氷述懷。

大正十一年

一月

一日(日) 四方拝 午前九時三十分参内。摂政殿下拝賀。

小牧先生、山名君、北白川宮、島津公爵。

二日(月) 久邇宮、李王世子、島津公爵(壬午町)、河内、

稲村、河内中将夫妻来賀。

三日(火) 元始祭 元始祭参列、島津公爵、淳宮。夜吉岡

速記者来。平野母子来。

四日(水) 鎌倉松方公、島津忠備男、逗子島津忠弘男、夜

訪伊集院君。

五日(木) 新年宴会 賜酒饌料三円(十日拝受)、晩間鮫

島宗也来。○牧瀬祐紀西帰。

六日(金) 小寒 登省、夜重野述夫来飲、市丸工学士来。

七日(土) 編輯所、夕与内子至東洋軒。

八日(日) 暖む、関子来、小池信行母子四人来、平山洋服

店主来、請修繕大礼服、因携去、夜伊集院君夫妻来。

九日(月) 柳原たか子帰京、編輯所、家慈拉内子訪弓削田、

自動車往復。○訪小牧先生、此夜小雪、暁雨。

十日(火) 登省、今朝氷柱、大隈侯誄詞起草、夜訪児玉君。

十一日（水） 登省、誄詞内大臣呈覽、松井秘書官電話、要訂正。

十二日（木） 午前九時至宮内大臣官舎訂正誄詞、与松井同訪鎌倉内大臣、誄詞定稿、午後八時半自品川乘汽車西下。

十三日（金） 米原大雪。○午前九時至大阪旧宅。後醍院・平山・康哉・祐紀及児時教出迎。○午餐後入洛訪湖南、遂至佐阿弥楼。○夜十一字帰阪。

十四日（土） 大雪。○松山・土屋・成田・武内・小野・岡野、及八板夫人・武田新夫人・後醍院夫人至。○岡君亦至。午後八時五十三分乗車。

十五日（日） 東海道上大雪。○午前九時半至品川、内子出迎。東京亦雪。

十六日（日） 午前十時御講書始陪聴被仰付。○東京駅ホテル午餐。○此夜河内中将来訪、編輯所出勤。

十七日（火） 午前登省、与松井秘書官同拝観宮殿。○此日隈侯葬儀。○此夜児玉・伊集院二君来、同晚餐。○編輯所出勤。

十八日（水） 土用 午前九時半登省、歌御会始陪聴。○与内子会食東京駅共午餐。○至編輯所出勤。○梅園生至、此夜捧觴家慈。○大雪。

十九日（木） 午後九時至史局。

二十日（金） 午前九時半登省。正午与野田義夫会食于東京駅食堂、自楼上俯瞰仏国元帥入京鹵簿。此日八板千尋、小川静馬至。小牧先生書經講義。

廿一日（土） 大寒 今朝寒甚。○午前至史局。○午後二時小牧先生講義、午後四時同郷人会第一東洋軒。

廿二日（日） 晴。○午前在宅、午後至文求堂。○訪萩野・平山二君、晚間弓削田君至。

廿三日（月） 晴。○史局、晚間柴尾寡婦人及市丸種子来。廿四日（火） 曇。○登省、示梅園良正書於大臣次官。○午後晚間訪至星製薬会社訪安樂君、此夕訪河内君。

廿五日（水） 至史局、桜泉総裁亦来、薄暮訪梅園生。

廿六日（木） 午前訪愛甲兼達於水明館、又訪瀧博士。○此夜土屋・風見・弓削田来飲。

廿七日（金） 晴、午前登省。○午後五時至浜町錦水、招飲長尾雨山。会者市村・萩野・林・斎藤・児玉・島田・黒木併予八人、岡田以病不至。

廿八日（土） 晴。○至史局。○午後至鎌倉、訪松方侯及兼坂・中田二氏、詣八幡神社、此夜九時半帰家。○坂元楨

二来、芝尾夫人来。

廿九日(日) 在家、晚間至日本工業俱樂部。

三十日(月) 史局、宮相招飲。

卅一日(火) 登省(京都伊東叟至)、晚間招飲諸友、中鉢・土屋・浜野・安田及柳口皆至、石丸・弓削田不至。富相富邸晚餐。

二月

一日(水) 至編輯局、山縣公薨、晚与内子散步銀座。

二日(木) 登省、有山縣公誄辭之命。○此夜招木村・松山

二君。○有山縣公墓志之命、夜分起草、至午前一時而成。

三日(金) 節分 午前十時訪桜泉先生、至大藏大臣官、与

国葬委員會議。此夜修正誄辭。

四日(土) 立春 登省。○至大藏大臣官舍、午後二時至

鎌倉、午後七時帰京、此夜若松及伊集院両君至、十二時散。

五日(日) 在家改誄辭、零時十分至鎌倉、午後四時帰京。

○寺井種長来、此夜喜多橘園至。

六日(月) 登省、誄辭成。○坂元清子来、晚間与内子散步

五反田。

七日(火) 初午 登省、此日樺山伯薨。

八日(水) 登省、有草樺山伯誄之命。

九日(木) 雨。○山縣公国葬、午前訪小牧先生、午後至樺山伯邸而唁。

十日(金) 樺山伯誄辭成、携草登省、午前十一時十五分自東京駅至鎌倉、謁内大臣、下午四時帰京。

十一日(土) 紀元節 九時十分至賢所参集所、参列祭典、千種間陪宴、肩痛甚。晚間敦妹至、俱偕觴家慈。

十二日(日) 午前有病兆、下午一時力疾至二松学舎、講演一時間、帰途至樺山伯邸。

十三日(月) 午前三時至編輯所。○十一時至青山斎場、為樺山伯葬儀接待委員、四時中田中将至、供酒食。

十四日(火) 登省。大正詩文訳載聖誄、頗更改文字、因草一書与日下勺水、有所詰難。

十五日(水) 罹鼻炎、在家調治。

十六日(木) 鼻炎未癒、終日在家調治。

十七日(金) 登省。○赴関谷次官之約、至日本俱樂部而午餐。中川鹿兒島県知事、山本市長囑以歡迎英儲文。○鼻炎発熱、招医診治。

十八日(土) 臥病。○鮫島・篠原両医至。○日高生至、郵

送金三百円於朝鮮洪谷生。

十九日（日）臥病。○篠原・鮫島両医至。○八坂直喜、伴

日蓮僧日種觀明而來訪。此僧為北河内友呂岐村字三井本嚴
寺住職、併仁濟会々長。高崎從弟至。

二十日（月）稍快、猶在蓐。○梅園良正至、贈果物弔籃、

篠原医師至、鮫島医師至横浜、今朝康哉自大坂至。

廿一日（火）庚申 鼻炎稍快。○購統琉球国志略及古文尚書
冤詞平議。○電問久間生、内子訪松方夫人於三田邸、内子

患眼疾。○篠原至。

廿二日（水）撤蓐。○平野母子至。○敦妹至。○伊集院

訪病、草歡迎英儲文、梅園生至。○河内中將來訪病。○中

鉢君至、喜多・田中。

廿三日（木）晴。○梅園生至。○河内中將夫人至。○病後

始浴、晚

廿四日（金）小雨後晴。○剃髻、至編輯所、白根秘書官書至、

囑救世軍病院開院式祝辭。

廿五日（土）甲子 晴。○登省。○梅園生亦至宮内省。○公

退、至衆議院、無騷擾之狀。○歸途購簾器。

廿六日（日）暖甚。○東朝谷口写真師至。○京都内藤湖南

至。○東鏡硯翁、約明日会食。

廿七日（月）雪。○至編輯所。○總裁電話督促英薩關係史、

此日脱稿。

廿八日（火）登省。宇佐美東京府知事見囑歡迎英儲文、并

東瀛画冊序言。

三月

一日（水）至編輯局。○此日頗寒。贈渡邊竹屋七十七寿言。

○救世軍病院開院式。

二日（木）至編輯所、東京府知事所囑文二篇脱稿。

三日（金）晴。○登省、宇佐美知事來訪、下午五點鐘拉内

子及康兒至東洋軒而晚餐。○此夜光吉・田中二君至。

四日（土）午前至編輯局、此日雨。○下午在家読居士集。

五日（日）晴。○午前読居士集、午後至島津公別邸、夜

十一時帰家、稲村夫人來訪、憾夫妻皆不在家。

六日（月）初曇後小雨。終日在家、修正英薩小史。久間電

報至。○贈小照於諸友。

七日（火）雨晴。○登省。

八日（水）晴。○至史局。大阪市長至、有草歡迎文之囑。

九日（木）晴。○至史局。午後四時訪樺山伯邸、捧玉串

五十日祭也、此夜木村時秀来談。○此日川北信愛来囑媒灼。

十日(金) 曇少寒。○登省。正午小雨。○土屋大夢至、供晚餐、囑予書字。

十一日(土) 晴。○至史局。下午有電召、因登省、討論賜加藤全權聖旨、至宮相官舎、薄暮帰家。

十二日(日) 晴而暖。在家書字。八板千尋至。○坂田長愛至。○田中柳江至。下午奉家慈拉内子及阿安、至鯨洲川崎屋夕餐。

十三日(月) 晴。○至史局。午後二時勝島氏至、夜読居士集。夜雨。

十四日(火) 曉起、雨稍止。○登省。梅園生訪予於宮内省。午後三時至新宿訪濱野氏猥鴨、遂飲于花月、土屋・杉村・濱野・野田・中鉢・石丸二女・田兄弟留于八人。

十五日(水) 晴。○至史局。下午稍寒。晚酌就寢。○曉雨。此日勝島夫人令嬢至。

十六日(木) 曇。○至史局。此夜雨。

十七日(金) 上午雨霽。○登省。

十八日(土) 晴。至史局。国民新聞史料展覽会、不果往觀。

十九日(日) 先師遺臺整理委員会。○大久保・岡田二君来

会。萩野・重野・小澤三君以病不至。弓削田秋江至。

二十日(月) 晴。至国民新聞社別館、觀史料陳列、与森大狂相遇。○登省。小笹此夜小笹国雄至。此夜大雨。

廿一日(火) 春季皇靈祭 社日 晴、春寒尚甚。午前八時大礼服至賢所参集所。後醍院廬山及正子自大阪至。

廿二日(水) 晴。○至史局、登省。小笹来訪、紹介平田柳太郎、囑英文浄書。

廿三日(木) 晴。○至史局。大阪府理事官坂間棟治来訪。

廿四日(金) 晴。登省。坂間至。此夕岡野半畊男柳江至、柳江画屏風。

廿五日(土) 晴。○至史局。此夕与内子訪萩野君、遂至上野精養軒晚餐。

廿六日(日) 川北生婚禮、請予媒灼。午後一時至日比谷大神宮、尋開宴大松閣。六時帰家。

廿七日(月) 晴。○問小牧総裁病。○登省。○午前十一時半至永田町別邸會議。○至三田松方侯共午餐。内子至病院。

廿八日(火) 晴、大風捲沙塵。○登省、作学習院祝辞。○至日本橋平松町住友支店、問鈴木君病。此日康哉及増田生

自大阪至。

廿九日（水） 晴。○至史局。○内室病院。午後至静嘉堂、校文心雕龍。○梅園為宮内省囑託員。

三十日（木） 晴。○至史局。午前十一時至宮相官舎。

卅一日（金） 雨。○登省。賞勳局調査、緑綬褒章四百三十人。飾版十人。

四月

一日（土） 晴。桜花正開八分。至史局。○良正有合格之報。

午餐。奉家慈、拉内子及女子乘自働車、過九段至上野看花、至東洋軒晚餐。

二日（日） 晴。午前缺硯翁來告別云、此夕乘車向発、夫人

亦同至、延之楼上而午餐。午後至三越呉服店、七時半送缺硯游支那。

三日（月） 神武天皇祭 晴、稍寒。午前九時四十分至賢所、神殿之側桜花略開。○

四日（火） 雨。○登省。午後五時卅分送荒尾夫妻於東京駅。

五日（水） 晴而暖。○至史局。午前十一時過高崎宅、至永田町、別邸會議。此夜坂田生帰阪。鮫島豊彦借百五十円。

六日（木） 晴、稍寒。○至史局。午後至静嘉堂校文心雕龍。

七日（金） 登省。○摂政官歡迎英儲口演草案、与珍田太

夫討論是正、至午後六時。○此日家宴、此夜千代松・二木至。中田知事至。

八日（土） 午前晴、午後雨。○登省。乘自動車至牧野氏宅、始參以文会。○安井君告以林浩卿之訃。以文会午後二時。

九日（日） 晴。午後三時至林浩卿宅、弔唁之、夜深帰宅。

十日（月） 晴。○有電召登省。午後二時送林浩卿之葬。此夜松井・猪子・金尺・雨宮五子至。後藤・伊藤二生至。

十一日（火） 雨。○登省。○作岡島墓銘。午後五時帰家。有電召、乘自動車至霞関東宮御所、無事、徑帰家。○村松寡夫人至。

十二日（水） 晴。至史局。英儲入京。家慈与内子訪河内君。

十三日（木） 晴。至史局。○午後至静嘉堂校文心雕龍。与土屋大夢会食第一東洋軒。○内子訪鎌倉叔母。

十四日（金） 雨。○登省。午後四時公退。雨稍止。

十五日（土） 晴。○至史局。午餐後、与斎藤林二生散策、過下谷文行堂、至伊藤松阪屋。過東洋軒晚餐。

十六日（日） 晴。○午前草那須紀功碑。午後二時拉内子与伊集院君夫妻、同參新宿御苑、陪觀桜御会。

十七日（月） 晴。至史局。○大阪成田軍平君來訪。

十八日(火) 晴。○登省。○家慈微恙。宮中午餐會、英儲將辭京也、松方内府參内。○午後二時、從内府至博覽會、觀浮世繪。

十九日(水) 晴。○至史局。午後至靜嘉堂校正。

二十日(木) 晴。至史局。午後訪桜泉先生、不遇。又訪羽生大佐。此日河内勝次・美坐時中至。

廿一日(金) 晴。○登省。梅園生至。英儲自日光山歸京。

廿二日(土) 庚申 晴。○至史局。午後拉内子及敦妹・千代子、觀博覽會。此夜西村時直至。

廿三日(日) 小雨後、晴。○鎌倉兼坂一家皆至。午後河内勝次・萬助・知覽伴彦至。○関子爵至。

廿四日(月) 雨。○与内子至四谷午餐。訪田中柳江。午後三時拝觀赤坂離宮。

廿五日(火) 晴。○登省。○午後与牧野宮相・関屋次官至帝國圖書館、觀陳列文書。中央大学前、松本亭、南郷婦人招待

廿六日(水) 甲子 晴。○史局。午後開斯文會々長推戴式於大学山上御殿、予亦會焉。林浩卿廿日祭。

廿七日(木) 晴。○史局。家慈招請同郷老婦人、歡晤至晡

而散。此夜木村君至。

廿八日(金) 晴。登省。福岡君來質疑。此夕与河内・八板上妻宗之三氏會食東洋軒、協旧主家政。鎌倉坂本母堂來宿。

廿九日(土) 晴。○至史局。十時訪桜泉先生之病。午後至文求堂、買韓柳文及戴東原集。四時訪林浩卿遺族。

三十日(日) 靖国神社大祭 雨、寒甚。終日在家揮毫。○河内勝次至。午後石塚氏結婚披露、京橋北槇町口東華食堂。

五月

一日(月) 晴。頗寒。○至史局。晚餐後散步。馬場醫師來診、家慈宿痾稍快。

二日(火) 八十八夜 晴。○朝大江慶尊・木下快雲至。○登省。寒早退。

三日(水) 晴。○至史局。午後至靜嘉堂校文心二時間。此日田上七之助至。八板正二歸郷。

四日(木) 晴。○至史局。午後寺田望南至。求售賈似道本閣帖、価五十円、不得已購藏之。留而飲。望南醉甚、以車送至其家。

五日(金) 曇後雨。○登省。雨霽、公退。○寺田望南至。午後至三田山名氏家、開宴東洋軒。午後四時半山名君招待。

六日（土） 晴。○午前至靜嘉堂校文心。至史局。此日寺田翁至。午後至神田買書。午後五時富士見軒。此夜玉井・相宅來宿。

七日（日） 晴。○小川靜馬・川北信愛夫妻・大阪今井真吉・西大海（午餐）、庄野俊平（晚餐）至。此日千代子・松榮帰岐阜。

八日（月） 晴。至史局。菊池則常來訪。長野生及西村惣介寡婦至（晚餐）。上妻宗之至。

九日（火） 晴。○登省。○菊池至。午後五時山岡千太郎・田中柳江至、晚餐。山岡能樹至。

十日（水） 晴。○至史局。川北至。河野期而不至。河野。

十一日（木） 至史局。河野間瀬次至。晚餐。○此夕訪川北氏。十二日（金） 晴。○登省。讀鷺峯詩集。辻田忠兵衛至。○相宅・

玉井帰国。公退、訪三田老侯、与平山・寺田・中村等相遇。此日訪村山龍平君。

十三日（土） 晴。○至史局。午後河野間瀬次至。午餐後至中洪谷、謁川北氏。以文会至館森家。

十四日（日） 晴。○午前十時、至東京停車場、与河野・上妻・川北・真邊會談。○觀主馬寮競技。○銀座晚餐。○時直大

主馬寮競技會。婦着京。

十五日（月） 晴。○至史局。日高実容・中田時懋・河内礼藏餅子四人置酒。岡女子着京來宿。菊池至。

十六日（火） 曇。○登省。讀鷺峯集。公退後、至晚翠軒買紙筆。○此夜谷至。斎藤學士辭表至。此夜坂本君至。

十七日（水） 曇、小寒。○至史局。訪小牧總裁、議斎藤學士辭職。○至總務所而晤山之内監督。○豐田訃至。山本市長謝狀至。

十八日（木） 晴。至史局。○幸田成友至。岡母子拉安子遊晃山。沓懸氏至。○村山夫人至。晚訪河内君、晚餐。

十九日（金） 晴。○登省。讀鷺峯集。午後公退、後前田三介至。中島祝學友河東雄藏・遠藤家理至、不遇。○夜來小雨。

二十日（土） 晴。○至史局。○兒玉君贈筍及干魚。○日高蘇一至。午後四時至東洋軒熊毛郡教育家歡迎會。篠原氏至。

廿一年（日） 晴。○熊毛郡教育團至袖埦邸。土屋友作至、不遇。午前十一時下渋谷島津公爵別邸園遊會。午後四時飯塚西湖至。弓削田及姪女至。岡君帰国。

廿二日（月） 昨夜小雨、今朝霽。○至史局。

廿三日（火） 霽。○登省。讀鳳岡全集。土屋大夢至、共晚餐。

寺井種臣・種長父子至。

廿四日(水) 晴。○至史局。沓掛泉至。○至三越、饒寺井君於東洋軒。廿四日朝正子帰阪。

廿五日(木) 晴。○至史局。原田庄左衛門至、不遇。訪小牧先生。○主越大阪府属至、道謝。此日正子帰大阪。饒寺田君於東洋軒。

廿六日(金) 晴。○登省。読鳳岡集。此夜散步大埼橋。以文会稿自小牧先生至。○遣康哉於井筒。

廿七日(土) 晴。○至史局。小沢至来。午後至富士見町樂所、觀舞樂。此夜池田生夫婦至。以文会稿送君山。舞樂。

廿八日(日) 晴。○午前九時訪三田松方侯。大久保君亦至。廿九日(月) 晴。○至史局。至三越、買洋衣。

三十日(火) 晴。○登省。午後五時張宴、饗閨屋次官及大久保・永田両君、尽歡而散。興津庵。

卅一日(水) 大雨。○至史局。午後五時冒雨至三州俱樂部、与西郷午次郎氏始相見。○岩崎君囑印文。三州俱樂部。

六月

一日(木) 霽。至鎌倉訪松方侯。午後二時帰京、至史局。昇器与梅園生至晚翠軒、於橋善晚餐。至守尾、買金牋紙。

二日(金) 晴。○登省。早退。午後二時至上野精養軒、井筒結婚披露。井筒結婚披露。

三日(土) 晴。○至史局。午前八時濟寧館武術。

四日(日) 晴。○拉内子与康兒至三越、帰途至高嶋屋、散步而帰。

五日(月) 晴。○至史局。晚餐後与散步桐谷。

六日(火) 晴。○登省。○三島開墾紀恩碑成。○帰途訪伊集院男。内閣総辞職。柳沢健至。○時直亦至。此日小笹大阪市書記至。

七日(水) 晴。○午後訪桜泉先生。大阪市町池上君至。至史局。○久木田龍太郎至。

八日(木) 晴。○至史局。

九日(金) 晴。○登省。途訪小牧翁。公退後、至六方館、答訪池上市長。又至三田。此夜不能眠。

十日(土) 雨。○至史局。牧野宮相電召、至宮内省。帰途訪小牧先生、赴以文会。夜来雨甚。以文会。

十一日(日) 放霽。○午前作字。新内閣成。鐵硯先生至、午餐。午飯後訪萩原君、相携搜訪文選、共訪山柳江、遂至晚翠買印泥、飯于陶々亭。

十二日（月）入梅 晴。○登省。○親任式、至本邸、与木

村君相見。○至赤十字社。午後作字。久木田来訪。晚与内

子散策、至帝劇。

十三日（火）晴。登省。

十四日（水）晴。○至史局。午後五時与榊原・原田二翁飲

于川崎屋。約束川崎屋。

十五日（木）

十六日（金）晴。○登省。

十七日（土）微雨、午後晴。○至史局。午後作書。四時与

内子奉母觀帝劇。家慈觀劇。

十八日（日）晴。疲甚。終日不出門。

十九日（月）晴。○至史局。訪小牧先生。又帰途至靜嘉堂。

二十日（火）晴。○登省。帰途至三越、遂与弓削田夫妻及

内子飯于東洋軒。

廿一日（水）庚申 晴。此夜微雨。至史局、作講案。午後六

時至斯文会、講演辞章学之将来。斯文会講演。

廿二日（木）晴。○至史局。午後宮内省、馳自働車急召。

六時事了、公退。夜散策。

廿三日（金）晴。○登省。在内大臣、読書經論文。午前

十一時五分地震。○賜俸金。

廿四日（土）晴。○至史局。自宮内省急有召、馳自働車、

草勅語。此夕岡田君格与夫人同至。別所彰善・中村古峽至。

廿五日（日）甲子 曇。○午前九時着燕尾服参内。内謁皇后

陛下、賜酺。豐明殿秩父宮加冠。○東伏見宮病篤。○夜至

工業俱樂部。

地久節

廿六日（月）此夜雨、今朝晴。○至史局。

廿七日（火）晴。○登省。草誄詞。

廿八日（水）雨。○至史局。午後五時与内子同赴川北生

之約。

廿九日（木）晴。○至史局。腹痛、下痢数回。帰家服薬。

三十日（金）晴。○登省。○微恙未癒、辞謝華会館之約。

至松方内府誄詞成。華族会館（午後四時）。

七月

一日（土）且雨且霽。○至史局。午餐後与内子同至三越。

家慈有微恙。

二日（日）大風。○終日在家。午後六時、赴土屋大夢餞宴。

招篠原医師、診察家慈。木挽町田中家（午後六時）。

三日(月) 半夏生 午前五時半起、六時四十分出門、東伏見宮葬儀参列。零時半帰宅。

四日(火) 大雨。○登省。

五日(水) 曇且小雨。○至史局。敦子及高崎能樹至。家慈稍快。○以病辭謝東洋文化研究会之約。華族会館東洋文化研究会(午後四時)。

六日(木) 快霽。○至史局。東宮行啓。

七日(金) 晴。○登省。読曝書亭集。

八日(土) 曇後驟雨。○至史局。午後三時赴以文会約。以文会(安井)。

九日(日) 晴。○塩谷博士至、午餐、借山帶閣楚辭注及詞章学彙編二冊而歸。

十日(月) 小雨。○至史局。晚餐後、至目黒不動境内。

十一日(火) 晴。○登省。此夕招従弟能樹・母堂供晚餐。

十二日(水) 晴。○奉送聖駕於上野駅。○至史局。午後会送森博士之葬、帰途訪和庵。至文求堂、与青峯山人邂逅。夕至目黒、買花。

十三日(木) 晴、涼甚。○至史局。

十四日(金) 晴。○登省。

十五日(土) 晴。○至史局。午餐、游千束池。同游有馬・林田・梅園・安曾田併予五人。拓南州詩碑而帰。

十六日(日) 終日在家。

十七日(月) 晴。○至史局。午後四時赴斯文会之約。夜十一時雨至。斯文会(山上御殿)。

十八日(火) 晴。○登省。此日西郷侯二十年祭。以事不赴約、辭謝。

十九日(水) 晴。至史局。午後高崎能樹至、索字乃書三四幅。田中義卿至。

二十日(木) 土用 晴。至史局。午後四時赴市村圭卿約。会者仙台瀧川君山及萩野礼卿・岡田君格併予五人。石濱子純至不逢。

廿一日(金) 晴。○登省。二時公退。○芝尾入真寡婦至。晚餐後至目黒花園。

廿二日(土) 晴。至史局。

廿三日(日) 晴。○訪鎌倉松侯。○又訪兼坂不在、因与姨母三原氏至三松午餐。

廿四日(月) 大暑 晴。至史局。

廿五日(火) 晴。○登省。晚餐後、散策買花。此夜雨。此

日内子訪大久保氏。

廿六日（水） 霽。○至史局。

廿七日（木） 晴。○早朝内弟栄助自岐阜至、持贈香魚、分贈桜泉翁。○至史局。此日会葬杉氏母堂、又弔問伊藤公。

○橐駝師来。此日鎌倉姨母及春子夫人至。

廿八日（金） 且曇且晴。○登省。此夜伊地知茂七至。夜分溽熱不成睡。

廿九日（土） 曇、溽熱。○至史局。午前訪松方侯。

三十日（日） 明治天皇祭 午前八時半至。賢所朝集所、参列明治天皇十年祭。

卅一日（月） 晴。至史局。

八月

一日（火） 晴。○登省。○与関屋次官次官調査岩倉系図。

二日（水） 晴。○早起、訪寺田望南、購活版尚書。至史局。

河内君夫妻至。

三日（木） 晴。○至史局。白根秘書官書至、囑以文書。渾内君未

四日（金） 熱甚。○登省。○与関屋次官晤語、告以朝日新聞年金之事。○牧野宮相訪西園寺公於御殿場。晚餐東洋軒。

五日（土） 日中九十四度。○至史局。今朝増田生帰国。西

保輔至。家慈中暑、発熱八度三分。馬場・篠原両医至、晚間稍快。

六日（日） 日中九十六度、無風。午前八時至大井、弔問伊藤公爵令嬢之喪。午後並河総次郎至。家慈稍快。

七日（月） 日中九十四度、有風稍涼。至史局。晚赴原口統太郎约会、会鮫洲川崎屋。原田大観亦至。

八日（火） 晴。○登省。賜赤坂離宮所製玉露一壺。

九日（水） 晴。○至史局。献賜茶於家廟。

十日（木） 晴。○至史局。○余助急病。」此夜招木村・有村・篠原喫茶。

十一日（金） 晴。○登省。賜赤坂御苑所製玉露十壺。

十二日（土） 晴。○至史局。此夜辻政太郎贈千金於柳江。

十三日（日） 晴。終日在家、治尚書。田中義卿至、付辻政太郎所贈千金。

十四日（月） 晴。○至史局。重久氏来囑、以生麦祭文、限以四日。

十五日（火） 雨。○登省。加盟購買組合。

十六日（水） 晴。○至史局。久木原末次・羽生操至。早川

氏贈犬名S。

十七日(木) 晴。○至史局。犬逃

十八日(金) 晴。○登省。犬逃歸早川氏邸、遣康哉伴歸。

十九日(土) 晴。○至史局。下午治尚書。喜多橘園見招、

以事不往。

二十日(日) 晴。○午前九時、由新宿乘車、至調布。

廿一日(月) 晴。○至史局。良正・重正兄弟西歸。石濱子

粹至、款談至夜久而辭去。

廿二日(火) 晴。○登省。早退、歸家、啖西瓜。

廿三日(水) 晴。至史局。

廿四日(木) 甲子 夜來大雨、至曉大風雨。午時尤甚、至下

午四点風収雨罷。所謂駘風也。○至史局。○七十九度。

廿五日(金) 曇後驟雨。朝八十度、午後四時八十三度。○

登省。鯨島淳至。牧野大臣有命、纏山書堂、報二子、歸家。

廿六日(土) 霽。○至史局。

廿七日(日)

廿八日(月) 晴。○至史局。

廿九日(火) 晴。○登省。

三十日(水) 晴。○至史局。

卅一日(木) 晴。○

九月

一日(金) 晴、有風。○登省。

二日(土) 晴。○至史局。

三日(日)

四日(月) 晴。○至史局。

五日(火) 晴。○登省。

六日(水) 晴。○至史局。

七日(木) 晴。至史局。午後六時、品川酒樓雅集、会

者萩野・三上・市村・岡田及田中柳江併予六人。旧曆七月

十六日赤壁会。

八日(金) 晴。○登省。

九日(土) 晴。○至史局。

十日(日)

十一日(月) 晴。○至史局。

十二日(火) 晴。○登省。此夜松方侯自那須還京。

十三日(水) 晴。○至史局。午前訪松方侯於三田。此日至

學習院、觀乃木將軍遺物、遂訪池田君宅。

十四日(木) 晴。○至史局。

十五日（金）晴。○登省。

十六日（土）晴。○至史局。陰曆廿三日為予誕辰、招弓削田夫妻、置酒寓樓。

十七日（日）

十八日（月）晴。○登省。此松方内府罷、平田子任内大臣、松方陞授公爵。○訪松方公道賀。

十九日（火）晴。○登省。冷甚。

二十日（水）晴。○登省。始通刺、与平田内大臣相見。午後至史局。

廿一日（木）彼岸 冷甚。○至史局。武内義卿至、因供午餐、暢叙費時而別。

廿二日（金）曇、冷甚。○登省。午餐後退省。至浅倉屋購尚書、又至琳瑯閣、晚間歸家。

廿三日（土）曇、至晚小雨。○至史局。午後二時、開以文會於寓樓。會者松本・日下・安井・館森・佐藤・名取・中里七人。小牧翁以病、牧野以事、並不至。以文會。

廿四日（日）秋季皇靈祭 晴。○午前八時二十分出門、參集賢所、參列祭典、十二時帰宅。○島津邸祭典。○夜觀活動写真於新宿御苑。

廿五日（月）聖上・皇后還京。午前十一時十五分迎駕於上

野駟。与梅園君同訪桜泉翁於日野病院、帰途觀美術院展覽會。

廿六日（火）晴。○登省。拜觀東宮婚儀納采及御劍。

廿七日（水）小雨後曇。至史局。

廿八日（木）午前九時半、賢所參集。午前十二時參内奉賀、帰途詣久邇宮表賀。

廿九日（金）午前、上東宮御所、表慶。○登省。

三十日（土）晴。○至史局。登省。

文債、斯文會孔子祭文、愛甲喜春碑、愛甲氏先德碑、大阪市感謝狀、先師豐山先生碑。

十月

一日（日）晴。至鎌倉、訪松方侯、弔伊瀨知中将之喪、艸墓表。○訪中田中将。

二日（月）晴。○登省。公退後、至史局。

三日（火）在家理裝。伊瀨知中将墓表、属梅園君書之。

四日（水）雨。○午前九時半上車。夜八時半抵大阪、至後醍院君宅。

五日（木）大阪寓居來客、岡・相宅・松山。媳婦抱時紹來。○此夜赴社友約、賞月甲陽園。

六日(金) 雨。○歷訪永田・上野・山内・村山・岡野諸友。
晚赴松山君約、遂至懷德堂茶話會。

七日(土) 雨。○在寓、写字。○書先聖孔子神位。○渡
辺君至。○晚赴児時教宅、會食。

八日(日) 霽。○午前懷德堂師儒祭典、午後孔子祭畢、有
講演。晚赴大阪ホテル之宴。

九日(月) 晴。○至京都、問湖南病。○訪狩野君山。○又
訪松方公於沢文旅館。○拝觀東山文庫。

十日(火) 晴。○赴永田君約於門野、与愛甲・松方・磯野・
松山・今井及永田君午餐。此夜八時五十三分上車帰東。

十一日(水) 晴。○午前九時半着京。史局曝涼。訪小牧
翁病。

十二日(木) 晴。○登省。公退後、与内子至三越。晚間寺
田・中村君至、同飲。

十三日(金) 晴。○在家、草斯文会孔子祭祝文。島津男卒、
夜訪本邸。此日從姉柳田米子歿、以十五日訃至。

十四日(土) 晴。○弔島津男。登省。○島津男墓志成、又
訪青山島津男邸。喜多・渡邊二君至。

十五日(日) 晴。○午前在家、草学制五十年勅語。午前至

上野、見帝展。從姉訃至。

十六日(月) 晴。登省。午後会葬島津男葬儀。○至東朝社、
遂至斯文会。

十七日(火) 神嘗祭 晴。○以居喪、不參列賢所祭典。午後
訪岡田君格。此夜雨至。

十八日(水) 雨。○登省。公退、帰途至小牧邸、与茂彦
君相見。

十九日(木) 庚申 霽。○至史局。午後至松方邸及帝通社・
斯文会。小牧茂彦君至。斯文会委員會。

二十日(金) 晴。○午前謁小牧先生、有神道碑修正・文集・
墓銘之命。至宮内省、代小牧翁受辭令。参内拝謝、賜物。

島津男銅象用漢文。

廿一日(土) 晴。○登省。此日訪内大臣平田伯。○公退後、
訪小牧邸。公退途中弔門河鰭君。

廿二日(日) 晴。○至鎌倉訪松侯。午後四時三越洋服師至。
夜至小牧邸。雅樂会。

廿三日(月) 靖国神社大祭 甲子 晴。○会葬河鰭子。○帰
途登省。○小牧邸へ皇后宮御使及落合侍從御差遣、叙位叙勲、

葡萄酒下賜。以文余山上御殿(午後四時半)。賜物御礼、勅

使御礼、位勲御請。

廿四日（火） 晴。○登省。小牧先生へ賜へる銀器拝領。午

後至中央亭、新聞記者招待。中央事。

廿五日（水） 晴。○登省。○秩父宮へ参賀。

午後一時小牧先生薨去。予為葬儀委員長。主州俱樂部。

廿六日（木） 小雨。○至小牧邸。夜久帰宅。作小牧先生墓志。

廿七日（金） 晴。○至小牧邸。○午前艸記事寄東朝子。告別式準備略成。

廿八日（土） 晴。○早天至宮内大臣官舎小牧邸。○患中登省。午前十時至小牧邸、勅使賜幣帛。○午後一時半棺前祭。

○午後三時告别式（賜祭案）。

廿九日（日） 晴。○至湯島聖堂参列孔子祭。○与徳川侯同至上野、観先儒墨迹展覽、同午餐。○晚赴帝国ホテル。孔子祭。

三十日（月） 晴。○午前九時半奉送朝香宮殿下。○赴学制五十年記念式典。○午後三時葬小牧先生於青山。童樂全。

卅一日（火） 晴。○午後一時参内拝賀、謁摂政殿下。○午後三時拉内子赴外相芝離宮園遊会。○此日日名子太郎至不

遇。賜酒饌料三円。外務大臣園遊会。

故里の我か山の端に追す、む夢なつかしき十五夜の月

浅子

さま、の心々に詠むらむ高くもすめる十五夜の月

やす子

十一月

一日（水） 小雨。○登省。此日理髪。至小牧邸議十日祭之事。此夜日名子太郎至。

二日（木） 晴。○至史局。草松方公寿序。修正競技会令旨。

三日（金） 晴。○小牧先生十日祭。午後至化学普及館、又拜明治神宮。

四日（土） 晴。○登省。日名子太郎来訪。○草島津公所囑松方公寿序脱稿。

五日（日） 曇。○終日在家。母氏与児玉母堂遊目黒、内子従焉。中田泰至。招梅園君至、囑写字。大阪市長謝辞起草。伊集院母堂逝去。

六日（月） 晴。○至史局。小早川彦一來訪。贈松簾及烟管。○中田泰至。林業試験場祝辞起草。

七日（火） 晴。○登省。修正内廷文書。午後五時半日本俱

樂部。

八日(水) 大雨。○登省。公退後、至史局。○伊集院告別式。至晚飛車、至富士見軒。午後五時富士見軒。

九日(木) 霽。○至史局。

十日(金) 晴。○至史局。

十一日(土) 晴。○至史局。以文會。○島津男三十日祭。

十二日(日) 晴。○与内子同觀消費經濟展覽會。途次訪八板康紀・鮫島末子・羽生俊助諸氏。○市來信至。此朝午前九時奉送鶴駕。

十三日(月) 晴。○至史局。加藤君來訪。小牧先生二十日祭。

十四日(火) 晴。○至史局。内子訪柏原寡夫人。

十五日(水) 曇。○登省。内子赴鎌倉。羽生猛夫來訪。

十六日(木) 雨。○至史局。急召、午後登省。訊李塲公上

奏文。入江氏為宮内省御用掛。

十七日(金) 晴。○至史局。午後至小牧邸。河内時申至。

十八日(土) 小雨霽。○登省。

十九日(日) 晴。○奉送攝政殿下四国行啓。奉母遊日比谷

公園、小池寡夫人亦共往焉。

二十日(月) ○至史局。中田中將來訪。松方公歸京。

廿一日(火) 晴、有風後止。○至史局。午後一時半、赴赤坂離宮与市村・岡田二君、遇重尹殊多尹夫妻亦至。觀菊會、皇后陛下臨場。

廿二日(水) 霽。○登省。零時退出、至小牧邸。午後七時帰宅。小牧先生五十日祭。

廿三日(木) 新嘗祭 晴。○在家写字。○宮浦生來。午後四時五十分自動車出門、至賢所參集所。翌日午前一時二十分帰宅。

廿四日(金) 晴。○至史局。小牧茂彦來訪。午後五時三州俱樂部。

廿五日(土) 登省。公退後、神田書林歷觀、購楓軒文集。

晚赴双桂同窓會。午後四時松本樓。

廿六日(日) 終日檢小牧氏藏書。

廿七日(月) 晴。至史局。内子赴谷中平野氏祭典。午後至

小牧氏。平野太郎兵衛氏壹年祭。

廿八日(火) 晴。○至史局。江木衷氏招宴、辭謝。

廿九日(水) 晴。○登省。

三十日(木)

新嘗のまつりの庭の庭火にはふりし神代の姿ほの見ゆ

十二月

一日（金） 晴。○至史局。訪松竹支配人堤久次郎氏、求採用中田生、堤氏諾。

二日（土） 晴。○以病不出。

三日（日） 晴。○終日在家、作蔵書目錄。

四日（月） 晴。○至史局。午後至東京駅奉迎鶴駕。邀篠原医師診療。午後二時五分還啓。

五日（火） 晴。○至史局。在家服藥。篠原医生至。内子赴松戸訪西村時直、以琴子産期在近也。此日有風頗寒。

六日（水） 晴。○登省。宮相交付資料秩父宮披露宴。賜謁皇后宮・摂政宮陪食。公退後、訪上野君不遇。三原内弟自岐阜至。

七日（木） 晴。○至史局。正午赴松方公午餐之約。此夜敦妹至。

八日（金） 晴。○至史局。寄書市来正哉、大阪市江戸堀一、三八、督促追納重要文書一通。

九日（土） 晴。○登省。校訂神道碑。午後二時以文会赴名取翁宅。午後五時三州俱樂部、維新大詔煥発会。午後

五時永田町別邸。

十日（日） 晴。在家。川上栄一・羽生操・書林松雲堂至。

与小牧茂彦・梅園良正二君午餐。午後五時永田町別邸。

十一日（月） 晴。至史局。御講書始講官控内命至。

十二日（火） 晴。○登省。至史局。

十三日（水） 晴。至史局。登省。

十四日（木） 晴。至史局。

十五日（金） 晴。至史局。

十六日（土） 晴。○登省。公退後、訪寺田望南。

十七日（日） 晴。○終日在家。午後五時拉内子至橋善。

十八日（月） 小雨。○登省。晴。○至史局。分賞与金。散策。命工作帙。

十九日（火） 晴。至史局。聖上行幸葉山、至東京駅奉送。

二十日（水） 晴。登省。此夜寺田望南至。

廿一日（木） 觀菊会。

廿二日（金） 甲子 晴。至史局。小牧先生五十由祭。

廿三日（土） 登省。

廿四日（日） 終日在家。午後五時三州俱樂部。

廿五日（月） 午前与梅園君同至鎌倉、訪松方公。御講書始

候補被仰付旨被申渡。午後四時松本樓。

廿六日（火） 至史局。

廿七日（水） 晴。登省。○訪大久保君。酒卷事務官請予詠

朝鮮人建白書。喜多橘園招飲、予及入江・杉溪二子於三河屋。

廿八日（木） 此日午前、児時教夫妻孫男時紹、自大阪至。

午後至史局、御用仕舞。柳田タカ与真澄俱至、敦妹亦至。

廿九日（金） 午後参内。上年末祝詞。

三十日（土） 晴。塩谷温君至。狩野君書及講案至。此夜弓

削田君。

卅一日（日） 家慈・内子・時教・与津子・時紹・康哉・安

子団欒送歳。婢・花・澄。此日島津忠承公贈謝金二百円。

○贈金卅円於山内君。

大正十二年癸亥

一月

一日（月） 四方拝 晴。家慈・内子・時教・康哉・古市清与

予列座盃祝福。参内上賀。至山階宮・伏見宮・島津公・

閑院宮・秩父宮・久邇宮・李王世子・松方公、拜年。此夜

在家。

二日（火） 晴。終日在家、読詩大雅假楽篇。此夜与児玉（利

堯）君飲。朝鮮三原内弟贈二雁。

三日（水） 元始祭 晴。午前九時出門、至賢所参集所、列座

元始祭。今朝河内久彦夫妻・松榮子来京。○弓削田君来。

頒贈雁一於大家君。

四日（木） 晴。今曉零下六度。○午前九時十八分与梅園

君至鎌倉松方公拜年。帰途訪兼坂・中田二君、不在。此夜

河内君夫妻来賀。御講書始講官発表。

五日（金） 新年宴会 晴。○終日不出門。松榮感冒。河内久

彦歸小山。

六日（土） 小寒 晴。曉霧甚深。瀧母堂告別式至築地本願

寺。登省、請暇。内子徹宵看護松榮。

七日（日） 曉霧。○瀧母堂告別式至本願寺。将西游理行装。

八日（月） 午前九時半、自東京駅益乗車、拉内子游大阪。

○午後八時半抵大阪、投宿廬山宅。此日雨。

九日（火） 晴。○八板夫人・久間夫人至内子、訪今井眼医

及土屋夫人。午前訪永田君至松雲堂。此夜餞飲上野君於鶴屋。

十日（水） 京都大雪。○午前入浴、訪内藤・狩野二君、歷

訪書肆。午后五時至左阿弥楼。午後十一時帰阪。○此夜感冒。

懷德堂宴会。

十一日（木） 午前十一時松山・永田二君来訪、同至鶴屋、

小倉君招飲。午後岡・相宅・庄野三人来訪。此日八坂千尋

贈鮮魚。河繁訪内子。

十二日（金） 寒甚。○感冒臥床。増本医師来診。松山君室・

八板・吉田等至、久間至、小原道安至。

十三日（土） 臥病。○久間俊子至。此夕焼肉同飧晚餐。午

後八時半乗車東帰、抵京都駅、与狩野君晤。

十四日（日） 午前九時半抵品川、時教・康哉出迎。帰家則

家慈健全、松栄亦癒。○夫人賀年会。午後発熱臥床。篠原

医師来診。重野君至。

十五日（月） 雨。○臥床、発熱八度五分。此日康哉赴熊本。

十六日（火） 臥床。○熱稍退。児玉雇至。

十七日（水） 臥病。前額後頭岑々痛。河内君至。

十八日（木） 臥床。

十九日（金） 臥病、気管支炎。大谷書記官至。会晤卅分、

為発熱二分。○徹夜湿布。平野結婚以明日為期、因贈賀儀。

二十日（土） 臥病。○御講書始、陪從命至。午後原田大観

至。会晤三四時間、又発熱。二時十分千代子与松栄帰小山。

廿一日（日） 臥病。此夜馬場医師来診。

廿二日（月） 臥床。内子訪河内夫人議婚。

廿三日（火） 臥床。倩梅園君作答書數通。日高夫人・大阪

原田夫人及松村寡夫人至。喜多君来問病。

廿四日（水） 雨。○臥床。由高夫人至。○大阪原田夫人及

松村寡夫人亦至。喜多君来訪。午後雪。

廿五日（木） 大雪新霽。安富生至、為代作書。

廿六日（金） 臥床、頭痛未止。河内君至。此夜田中柳江至。

急設電話成功。

廿七日（土） 晴。○臥床。坂田・有馬二君至。自編輯所員

贈点心二函。並木仙太郎来訪、議婚。重野君来問病。

廿八日（日） 臥床。西村時直至。内子訪河内夫人。一

廿九日（月） 晴。○病漸癒、尚未撤病床。此日始入浴。此

日梅園君來問病。

三十日(火) 晴。午後再入浴。古活版周易・尚書・礼記、自松雲堂至。值百八十金。瀧川君山書至。作書答磯野・松本二君。

卅一日(水) 晴。○篠原醫師來診。午后四時田中柳江來索文。○光吉子大來問病。此夜入浴。○電話開通。

二月

一日(木) 晴。○今朝將撤蓐、灌腸立廁而覺寒、因又臥床。

梅園・田代・児玉三人至、能樹從弟來問疾。

二日(金) 晴。○篠原匠來診、石井生至。内子至久木田匠索診。又訪弓削田母堂病。○午餐至時教宅。○河内君至。

寺田翁携文中子而來訪。

三日(土) 晴。川上生至。○篠原來診。午餐後浴草津温泉。晚間荒尾君至、時教送之於品川駅。

四日(日) 晴而寒。○国民新聞載伏見宮貞愛親王以昨日薨。○大谷事務官送付皇族履歷、有誄詞墓志之内命。時教及八坂夫人至。神田松雲堂至。

五日(月) 立春 晴。○草誄詞及墓志。大谷事務官電話云、黒木大將亦宜賜弔諭、黒木家囑作墓志。中田中將至。晚

与児玉君會食。

六日(火) 晴寒。○有馬君至。集成館開館趣意書、公爵開館式辭。梅園君至。篠原氏來診。大谷氏約明朝九時半會晤宮相官邸。○黒木墓志成。

七日(水) 小雪。○午前九時至宮相邸、又至伏見宮邸、轉至本省。誄詞・墓志皆成。午後二時歸。熱七度六分。招医調治。

八日(木) 大雪。○臥床。熱退、頭尚岑々。○木村君至、得能君至。

九日(金) 晴。○無熱、頭痛未息。児玉翁至。

十日(土) 晴而寒。○熱退、頭痛亦稍止。河内夫人至。

十一日(日) 紀元節 快晴。○此日離床。○有客携南洲墨蹟來乞鑑定者。○泰子養女議決、此夜酌祝盃。此夜八坂千尋至。

十二日(月) 曇寒。○午前梅園君至。午後二時二十分發品川至鎌倉、投宿坂之下海月旅館。坂本伯母及兼坂隆一至、贈白葡萄酒。浴潮湯。不能熟睡。

十三日(火) 曇寒。終日執筆、作覆岡田・喜多・中村二君書、致書愛甲君。田中柳江所囑謝啓亦成。兼坂夫人至、拉内子散策。此夜睡眠不足。

十四日(水) 初午 曇。○草高野先生墓碑銘。内子訪兼坂。

土屋大夢至一宿。此夜不能睡、一喝隣客。

十五日（木）曇暖。○大夢帰京。午後至兼坂、求得睡眠剤而帰。

十六日（金）庚申 風雨。齒痛、熱五分、右頬腫張。此夜兼坂君至。

十七日（土）晴、風寒。○至齒科医求治。○午餐後帰京。

十八日（日）晴。○至古島齒科医院求治、手術後痛稍減。

野田松雲堂至。

十九日（月）晴。至古島齒科医。

二十日（火）甲子 雪。○与篠原医師相携至銕道病院医科室、乞治。○午後至史局。

廿一日（水）小雪、纔霽。○登省。○与重野君面晤。川北法学士午後三時逝去。

廿二日（木）晴曇相半。○至史局。午餐後至銕道病院。○至衆議院、与東幸治君面晤。○至晚翠軒。晚赴島津公爵三年町邸之約。

廿三日（金）曇。○至史局。午後弔川北法学士喪。午後四時登省、為伏見宮墓志也。

廿四日（土）雪。○缺勤。遣池田生於宮内省、送致唐鑑・

名臣言行録。又送木炭借金。

廿五日（日）曇。赴川北法学士告別式。内弟栄助至。晚拉宮浦要・栄助及時教至橋善晚餐。

廿六日（月）晴。登省。○至議場傍聴、帰途登省還券。栄助赴岐阜。

廿七日（火）晴寒。○至史局。高須市郎至。午後至病院。晚間勝島・川北二氏至。

廿八日（水）晴、寒甚。○登省。○内子病院。午後訪羽生君病。晚食後与内子同訪河内君、途間池邊君病。

三月

一日（木）晴。○至史局。午後抵病院。晚招萩野・岡田・市村三博士、飲于寓居。柳江不招而至。三浦・黒葛原（兼成）至。

二日（金）晴。○至三年町島津邸。正午川北法学士十日祭。晚抵東京駅送川北遺骨。帰途拉内子及時教至紅葉晚餐。○此夜婢自小山還。

三日（土）晴雨、霽後太暖。○登省。至病院。帰途訪小牧邸。家慈与兒玉母堂午餐。

四日（日）晴。○内子拉媳婦赴三越。予終日在家、草藤井

右門碑文。

五日（月） 晴。○至史局。午後至病院。

六日（火） 晴。○至史局。早川家扶來、囑修正尚古集成館趣旨。河内中将夫人至。

七日（水） 晴。○午前三時半袖崎大火。五時居木橋火起。

九時五反田亦失火。○十時半登省。三松俊平至。○家慈違和、夜篠原醫師來診。此日訪内田仲準。

八日（木） 小雨。○至史局。篠原醫師來診。

九日（金） 曇。○至史局。午後一時弔池邊君与狩野君遇。

○午後二時至築地本願寺、列宗方北平追弔會。

十日（土） 雨後泥濘甚。○登省。有摂政殿下台灣行啓令旨之命。歸途至病院。

十一日（日） 曇。○午前十時与梅園方竹同訪海東公於熱海水月莊。此日午後三時半与方竹同游梅園。夜來風雨。

十二日（月） 雨。○飧朝餐後、与方竹出門、買五雲牋及干魚。

十三日（火） 霽。午前十二時乘自動車就歸途。午後六時歸宅。家慈平安。此夜五反田失火。

十四日（水） 晴而寒。○登省。草台灣令旨而成、宮内登省太遲、至五時而公退。此夜於俱樂部有琵琶會、飯牟礼幸吉

彈奏。○此夜桐谷失火。

十五日（木） 晴。○至史局。添削贈位申請文書。黄昏携孫紹散步。

十六日（金） 晴。○至史局。玉利博士來訪、囑筆記西幸吉談話。黄昏携孫散策。

十七日（土） 晴。○登省。有電話云、菊池則常昨夜捐世。午後至病院、填了齋。瀧節堂至、見囑双軒鑑賞序。

十八日（日） 晴而奇暖。○袖崎本邸會議、尋列午餐會。午後奉母觀梅蒲田。喫飯於品川荒井屋、歸途遇雨。時教携孫紹游日比谷公園。

十九日（月） 雨、稍寒。○至史局。有召命、午後登省。久木田醫師來囑森元高見墓表。双軒鑑賞行成。

二十日（火） 霽。至史局。登省。午前十時有急命、登省。摂政殿下還啓、奉迎于東京駅。

廿一日（水） 晴。登省。○至宮相官邸。静岡橋本孫一郎・後藤肅堂來、促牧野君碑文。此夜岳陽牧野碑銘脫稿。此日訪山名君以上妻太夫人病也。

廿二日（木） 春季皇靈祭 春分 晴。○午前九時半至賢所參集祭典。摂政殿下及皇后代拜、竹屋樵典侍。晚拉内子至日本橋。

○此夜小雨。

廿三日（金） 霽。○至史局。篠崎君至。此夜訪児玉君。

廿四日（土） 晴。○登省。見囑帝国学士院受賞祝辞。

廿五日（日） 晴。○終日在家作字。榎本達也至。路次某至。

廿六日（月） 社日 晴。○至史局。久木田翁至。

廿七日（火） 晴。○至史局。登省。池上幸次郎君至、因置

酒暢談、觀訓引漢字典。

廿八日（水） 晴、暖。○登省。午後五時赴喜多橋園之約、

入江子・杉溪男亦至。

廿九日（木） 晴。○至史局。○早川不至。寺田翁來訪、松

雲堂因齋古書。晚至東京會館与岡島格・篠原恵両医会食。

三十日（金） 曇且寒。○至史局。松雲堂主、因齋古書。午

後二時至大学山上會館、赴斯文会之約。夜雨。○有康哉入

学之報。

卅一日（土） 晴而尚寒。○登省。午後至日本工業俱樂部

小集、歡迎池上君。会者市村・岡田・細田・深井・喜多及

予七人。

四月

一日（日） 晴。○在家。此夕張小宴祝康哉入学。此夜赴河

内中将之約。

二日（月） 晴。○弔大屋權平君之喪。登省、見次官請暇。

至史局。聞北白川兩殿下・朝香宮殿下之事。喜多君至。

三日（火） 神武天皇祭 午前九時至賢所參集所、聞發宮中喪

而退去。○弔問北白川宮、又至朝香宮慰問。喜多貞吉至。

午後五時四十分至品川駅、乘車西下。

四日（水） 午前七時至梅田、松山・吉田二君、良正・重正

來迎焉。○八時迎財津君。○訪愛甲君。○至後醍醐院君宅昼

餐。○訪圖書館第十五支店。○今橋ホテル晚餐。○至神戸、

宿アストアホテル。

五日（木） 午前七時至税関埠頭、迎島津公夫妻。○九時半

乘車至大阪鶴屋、赴永田君午餐之約。○四時至京都、訪問

内藤君之病、又訪狩野君。○京都ホテル晚餐。○八時五十

分乘車。

六日（金） 午前八時二十分至東京駅、直歸家。家慈無恙。

○至史局。此夜七時就寢。昨夜雪、甚寒。

七日（土） 午前七時起床。疲勞猶甚。○登省、奉伺天機。

午後三時親交会發会式。

八日（日） 晴後風雨。午前十一時半、奉家慈拉内子觀花

東台、午後四時帰宅。風雨至曉始罷。栗川叔母訃電至。

九日(月) 快晴。○至史局。大久保君至。市丸有二至。与大久保君約。

十日(火) 晴。○至史局。午後三時公退。此夜子島勇之助至。

十一日(水) 曇。○登省。午後四時訪平田盛胤於神田明神祠。訪文求堂。此夜至時教宅。此夜雨。

十二日(木) 雨、午後霽。午前八時二十奉送鶴駕。○旧友子島荷村帰郷。訪海東公午餐。百騷書屋扁額成。○贈位再

調査、田島朝次郎・市丸有二至。

十三日(金) 晴而寒。○至史局。福井学習院教授來訪、午後四時辭去。

十四日(土) 曇且寒。○登省。訪下落合島田鈞一、尋赴安井小太郎宅以文会之約。歸途訪市村圭卿。此日与内子同訪

田島寓居、不遇。

以文会

十五日(日) 晴。○午前讀書。午後市丸於事。○至神田明神、行市丸有二・田島礼恵子婚禮。午後五時開宴精養軒。

此日尾上義秋・伊集院兼誠至。市丸結婚。

十六日(月) 晴。○至史局。内子訪医。午後三時早退。此

夜至児教宅。此日内子訪市丸氏。

十七日(火) 晴。○訪松方老公。○至史局、属惠露閣印譜序清書於梅園君。内子訪医。市丸正三至。

十八日(水) 晴而有風。○登省。午後三時公退。至史局、与久木田五介晤。○喜多貞吉至。此日唐鑑講義。市丸新夫婦・田島老夫婦並至。訪伊集院君。

十九日(木) 雨。○至史局。午後与内子至紅葉晚餐、遂至

東京駅送田島・市丸二氏赴鳥取。

唐鑑講義。

觀桜会中止。

二十日(金) 晴。○至史局。薩摩婦鑑脱稿。午後六時至三

州俱樂部、餞飲伊集院鹿兒島市長(俊)之任。

三州俱樂部。

廿一日(土) 晴。○登省。臨幸紀恩碑・石像記・一柳隨筆序脱稿。午後四時伊藤紫浪・梅園良正・田中柳江・喜多橘

園至、置酒潭藝、夜久而散。伊藤紫浪。

廿二日(日) 曇。午前九時至湯島聖廟、尋至大学、聽岡田

君講演。訪萩野礼卿。午後五時帰宅。孔子祭。

廿三日(月) 晴。○至史局。久木田五介來訪、請增訂碑文。

廿四日(火) 曇且寒。○至史局。中田中將至。大阪河野母

至。○敦妹至。以文会稿收到。

廿五日（水）雨。○至史局。午後三時至偕行社、行尾之上義秋・伊集院百合子婚礼。予夫妻為媒酌酌。

伊集院尾之上結婚

廿六日（木）晴。○至史局。訪松方公。内子訪尾之上宅。

廿七日（金）曇。○至史局。松戸琴子罹耳疾、囑篠原医師往診。午後五時与内子俱至帝国ホテル、与日高・河内二君及其夫人会食。

廿八日（土）曇。○登省。内子至松戸訪琴子病。前田・萩

野自大阪至松戸。光吉元次郎至。尾之上夫婦至。岡田君之約。

廿九日（日）風烈且小雨。午前兼坂君至、同訪松方公。午

後三時赴岡田君之約。萩野・市村・松井亦至。郡山貞次郎至。

岡田君之約。

三十日（月）靖国神社大祭 晴。風亦罷。○至史局。朝香妃

午後七時二十五分。

五月

一日（火）曇且寒。○至史局。午後三時帰家。至東京駅奉

迎鶴駕。此夜訪博文堂新居。東京還啓、午後四時四十五分。

二日（水）晴。○登省。公退後、与内子伴尾之上新夫婦会

食東洋軒。

三日（木）雨。○至史局。午後四時講唐鑑。晚餐後訪松方公。講義。

四日（金）晴。至史局。作西郷・八田両先生詠楠公父子詩韻識語。喜多貞吉至。

五日（土）晴。○登省。午餐、至九団茶寮、觀柳江画。午後三時半至本邸委員會議。○羽生・市丸至。薩摩岡島格君夫妻至。鮪。

六日（日）初曇後小雨。午前艸照国公訓論跋。午前十一時

至本邸、預園游会事、午後四時半罷。○原田・原・石版屋至。

尚齒会。島津六日園游会。

七日（月）曇。午前九時半至松戸訪琴子之病、遂至園藤之

学校、乞花而帰。午後五時本邸晚餐。

八日（火）雨終日。○至史局。退出後、草奈良大極殿趾保

存会祝辞

九日（水）霽。○登省。河内久彦夫婦及松栄富子二女來訪。

十日（木）晴。○至史局。午後三時至東京駅迎鶴駕。○赴

篠崎之約、会者岩崎・寺田・伊集院併予四人。午後三時三十分還幸。篠崎君之約。

十一日（金）曇。○至史局。草延徳本大学跋。

十二日(土) 晴。○登省。午後二時文会、勺水・朴堂・袖海・劍堂・峻峯・六石来会。午後六時散。以文会。

十三日(日) 晴。○終日在家、評隲以文会稿。竹内可吉至。

○博文堂使至。伊集院君赴鹿兒島。

十四日(月) 晴。○至史局。方竹至、云訪鎌倉。

十五日(火) 小雨。○至史局。千代子携二女婦小山。此夜

与方竹訪望南翁。翁置酒暢叙。帰途訪岩崎愚庵。

十六日(水) 曇且寒。○登省。草学士院受賞祝辞。公退後

寒甚、呼酒取暖。

十七日(木) 晴。○至史局。講唐鑑。此夜与内子同訪小牧

君。講義。

十八日(金) 晴。○至史局。草文教史。此夜与内子同訪小

牧君、帰途、此夜携孫時紹散步五反田、李田黒、始乗電車。

十九日(土) 晴。○登省。奉命撰北白川成久王墓志。日高

少尉至。平山洋服屋至。此日珍書会、有事不往。

二十日(日) 晴。○午前今井君至。大谷是空・高橋鶴山同至。

与今井君同至静和園園遊会。園遊会。

廿一日(月) 雨。○至史局。此夜喜多兄弟至。

廿二日(火) 雨。○至史局。考查薩摩文化資料。渡邊千冬

君至。此夜土屋元作君至。

廿三日(水) 雨。○登省。托金指、属編輯皇族墓志集。午

後四時半至三州俱樂部、講演薩藩文化。三州俱樂部。

廿四日(木) 晴。○登省。学士院祝辞成。公退後至東京朝

日、与緒方君同交詢社、与土屋・石丸・小坂諸君相晤。

廿五日(金) 雨、既而霽。○至史局。読三国名勝図会。北

白川成久王墓志成。

廿六日(土) 曇。○登省。雨。三枝光太郎来請講演、堅辞。

山田式部官至。

廿七日(日) 晴。○午前山田式部官至。正午訪徳川侯

爵(頼倫)。午後作字。夜散步銀座。

廿八日(月) 晴。○至史局。○掃除。午後武内宜卿至、置

酒款語。贈一斎手沢本列子為贐。土屋大夢至。永井喜平至。

○有馬・林田二君自薩帰京。

廿九日(火) 晴。○午前八時半迎永田・松山二君於東京駅。

武内宜卿至。午餐後訪宮内大臣。○晚与松山・中村二君同

赴永田君之約(築地三野田屋、京橋二八二―一九九)。永

田・松山君約、同登省。

三十日(水) 曇後雨。○登省。○萩野君来訪、与松山君同

訪大谷書記官。午後四時五十分奉迎北白川宮喪於東京駅。

晚餐後至三州俱樂部。永井喜平至。○曾山君至。北白川宮喪至。

卅一日（木）雨。至史局。文化資料調査。此夜早寝。

六月

一日（金）雨。○至史局。此夜松山君觀劇。喜多橘園至。

二日（土）曇。○登省。

三日（日）晴。○松山君西帰。琴子・萩野自松戸至。午後

一時赴同学之約。設席目黒西郷侯邸。同学会。

四日（月）曇且冷。○至史局。読島津系図。

五日（火）晴。○至史局。野山図説序成。読薩摩叢書。同

文会（華族会館）。

六日（水）曇。○登省。

七日（木）晴。至史局。午後四時講唐鑑。講義。

八日（金）曇。○午後七時赴護国寺、参列北白川宮葬儀。

午後一時帰宅、至史局。北白川宮葬儀。

九日（土）雨。○登省。以文会延期、以廿六日為期。以文会。

十日（日）晴。○内子訪鎌倉叔母。中田泰訃至。午後二時

赴銀行俱樂部、尚齒会。尚齒会。

十一日（月）晴。○至史局。読島津氏系図。博文堂至、授

景印大学序。

十二日（火）入梅 曇。○至史局。午前十一時至鎌倉、弔中

田泰之喪、河内君夫妻同行。訪松方公・兼坂氏。栗本・川

北二人至、不遇。敦子至。

十三日（水）晴。○登省。奥山良筑祝辭添削。

十四日（木）晴。○至史局。読系図。

十五日（金）雨。○至史局。

十六日（土）庚申 雨。○登省。重野述夫来話。

十七日（日）雨。○最上三郎・川北信至。上原直次郎至

（鈎玉）。

十八日（月）霽。○得仏公諱日。終日作字。午後河内夫人

及平山友誼至。○西保輔至。

十九日（火）曇。○至史局。川北至。岡山子本書至。西保輔至。

二十日（水）甲子 霽。○登省。

廿一日（木）雨。○至史局。午後五時至浪花屋、赴和庵之

約。服部・芳賀・岡田・松井相会。浪花屋。

廿二日（金）曇。○至史局。寺田翁至。○訪山名邸、弔問。

○至大久保君、午餐。○上妻太孺人入棺式。講唐鑑。講義。

廿三日（土）晴。○登省。公退後、至神田書肆大会、買書。

○午後五時半至錦水。武田生至。錦水。

廿四日(日) 晴。○在家。午後二時上妻太孺人告別式。此

夜俱樂部、晚餐支那料理。尚俵告別式、午前十時至十二時。

廿五日(月) 晴。○早起沐浴、乘電車至東京駅而参内、拜

謁皇后宮、賜午餐(午前十時四十分参内、燕尾服、不要御礼)。

萩野・岡田・芳賀同卓。地久節午前十時四十分。夜散策銀座。

廿六日(火) 晴有風。○至史局。頒与賞金。○国華社謝金

至。中村生至。

廿七日(水) 曇。○登省。公退時遇雨、呼車至駅。

廿八日(木) 曇。○至史局。午後五時至帝國ホテル、招飲

今関・岡田二君。今関君招待。

廿九日(金) 曇。○至史局。午後六時赴德川侯之約、以有

栖川宮妃之喪故中止。德川侯晚餐午后六時。

三十日(土) 曇且小雨。○登省。有栖川宮妃墓志之属。此

日平山友義誼至、同訪知覧君、不遇。此夜友誼一宿。

七月

一日(日) 雨。○知覧君至。正午赴島津公之招。○午後三

時弔問有栖川宮邸。河内久彦夫妻至。袖崎邸午餐會。

二日(月) 雨。○至史局。読系譜。

三日(火) 半夏生 雨。○至史局。読島津家譜。

四日(水) 晴。○登省。午後五時至東洋軒會食。長野実意、

及康紀・安彦・時教、併予五人。家慈訪上妻邸。

五日(木) 曇。○至史局。池田文学士至。午后講唐鑑。小

山田少将亦至。井上侯囑墓志。講義。

六日(金) 曇後雨。○二上枢密翰長至。都筑君墓志成。

○送書画於大坂。至史局。○内弟栄助至。川北・東二氏及

博文堂至。邀児玉・木村・梅園三君小酌。

七日(土) 小雨後曇。○登省。○長野実意來訪。書延徳本

大学跋。此夜冷甚。

八日(日) 小暑 小雨後曇。午後六時、与内子招東君及内弟

晚餐于東洋軒。

九日(月) 曇且雨。○至史局。草洪谷稻荷神社碑。晚餐後

唱謡曲。関忠久公伝。

十日(火) 初霽後曇、有驟雨。松下氏答書至。千代子帰

小山。○午前九時四十五分奉送鶴駕赴葉山。○訪松方公

之病。○至史局。此夜又訪松方公、其病稍快。

十一日(水) 霽。○登省。午後三時公退、訪萩野礼卿。○

午後五時至大学、赴別宴。○近藤氏請入安井君門、予紹介

得内諾。午後五時送別会（大学）四時。

十二日（木） 霽。○午前八時十分奉送聖駕於上野駅。午後

至吏局。此日又訪松方公、全嗣云病痊。

十三日（金） 曇且冷、後小雨。○至吏局。午後至事務所、

与山之内君面晤。此夜喜多君至。

十四日（土） 曇且驟雨。○登省。托与松井事務官書於白根

秘書官。○赴細田劍堂宅、以文会。○夜至三州俱樂部。三

州俱樂部、午後五時（式円）以文会。

十五日（日） 雨。○終日在家。時教赴任小山。高崎愛子至。

十六日（月） 雨。○至吏局。荒尾慶盈至。

十七日（火） 雨。○至吏局。上原直次郎至。

十八日（水） 初雨後霽。○登省。午後二時公退、晚餐後与

内子拉紹孫游多摩川。

十九日（木） 新霽。○至吏局。講義。

二十日（金） 晴。○至吏局。

廿一日（土） 土用 晴。○登省。

廿二日（日） 晴。○午前十一時至島津公洪谷別業。午後

二時辭歸。島津公洪谷別業（十時）

廿三日（月） 晴。○至吏局。

廿四日（火） 大暑 晴。至吏局。

廿五日（水） 晴。○登省。

廿六日（木） 晴。○至吏局。島津公囑往鹿兒島、因電話宮

内省請暇。

廿七日（金） 晴。○至吏局。午後八時五十分東京発、井筒

亦同行。賜内帑金三千円於懷德堂。

廿八日（土） 晴。○午後九時後醒院父子来迎于大阪駅。下

関与栗本博士及東幸治氏邂逅。

廿九日（日） 晴。○午後九時抵鹿兒島。○与山口君同觀集

成館。○訪種子島男爵。○文子拉咲子・愛子至。八板正二

及康哉書至。松永理事官至。

三十日（月） 明治天皇祭 晴。○午後六時四十分与大迫大将・

松永理事官同至。霧島榮之尾講演一時間半、宿榮之尾館。

卅一日（火） 晴。○大迫大将帰東。午前十一時至午後一時

講演。○午後三時帰覽。

八月

一日（水） 晴。○午前訪種子島幸雄・岩井氏、展興国寺墳墓。

午後六時鶴鳴館採訪委員会。

二日（木） 晴。○午前展正建寺・南林寺・福昌寺、觀松公

誕生地、訪磯邸。

三日(金) 晴。○午前觀木村探元遺墨。○浩然亭三鱗会。

○午後揮毫。○種子島男爵邸晚餐。○十時二十五分發東歸。

四日(土) 晴。○車中与谷本梨庵邂逅。○午後十時半抵大阪、

宿廬山宅。

五日(日) 晴。○与廬山同訪問天見村相宅寢藏一泊、涼味

如秋。岡寛治君亦至。

六日(月) 晴。○正午自天見歸阪。午後四時懷德堂會議、

赴鶴屋、松山君有病不至。午後七時五十分發東歸。熱甚。

七日(火) 晴。○午前八時二十分東京駛着。○家慈及家人

皆無恙。○至史局及本邸、復命。

八日(水) 立秋 晴。○家慈赴小山、内子及安子従焉。

○登省。此夜九時内子帰宅。此日山田瑞穂至。

九日(木) 晴。○至史局。

十日(金) 晴。○至史局。食西瓜。牧野謙次郎至、留

而午餐。

十一日(土) 晴。○登省。午後作字。

十二日(日) 晴。○午前作字。午前十一時出門、歴訪松方、

島津両公不逢。○弔林寛君之喪。

十三日(月) 晴。○至史局。○牧野謙次郎至。午後六時袖

崎邸員邀予及菱刈中将於紅葉館。河内・志岐両中将、伊集院・

伊丹二少将同席。

十四日(火) 晴。○与内子至小山、奉拜家慈。児孫団欒、

樂不可言。此夜朝倉安人学士招飲六合山莊、作小匣記。

十五日(水) 庚申 晴。熱甚。小山九十二度、東京九十三度

九。○訪葉丸君。晚於時教宅会食。膳有香魚。午後八時乘汽車、

十一時帰宅。熱不可熟睡。

十六日(木) 晴。九十一度。○登省。与牧野宮相午餐後、

歴訪平沼・市村・服部・牧野(藻洲)諸君。午後七時帰宅。

此木村君至。

十七日(金) 夜雨一過稍涼、始覺秋風至。○至史局。作手

東寄永田君、附霧島四十韻於謄写版。此日内子中暑、發熱

三十九度二分。篠原君来診。

十八日(土) 曇。○登省。買氷菓而帰。内子頗快。此日涼

甚。○晚訪早川君。

十九日(日) 甲子 晴。此夜拉内子及康児散策銀座、遇雨

而帰。

二十日(月) 晴。○至史局。午後四時岡田君格来告別。

廿一日（火） 晴。○作紹介状三通。午前九時武内宜卿至。梅園方竹至、乃囑篆額。午後一時与宜卿同発東京、十時至仙台。瀧川君山出迎。

廿二日（水） 晴。○昨夜下榻君山寓廬。晨浴朝飧後、道旧談藝、不知晷移。此夜宜卿亦至、三人一尊、款談至夜半而罷。

○登愛宕山。

廿三日（木） 微雨稍冷。○此日作贈君山詩。○午後四時与君山同訪宜卿宅。此夜一泊。夜遊青葉城外。

廿四日（金） 晴。午前六時出門、与宜卿同訪中尊寺。帰途投宿松島白鷗楼。至雄島、觀頼賢碑。此夜月白。

廿五日（土） 曇。○朝飧後、遊覽瑞岩寺。午前九時乘舟赴塩竈。舟中読河北新報、知加藤首相薨于疾。電報白根秘書官以帰期。此夜五時五十分発。

廿六日（日） 午前五時帰京。乘自動車登省。艸詠詞。至宮相官舎、与大臣次官会商。受命至逗子、会晤内相。尋伺候葉山御用邸。午後五時帰宅。

廿七日（月） 晴、熱。○至史局、作与種子島男爵及山口平吉君書。午后五時卅分発、至小山、宿時教宅。家慈及両家皆無恙。

廿八日（火） 晴、熱。○午前八時奉家慈与内子及千代子・与津子・泰子・松栄・時紹、至大磯禱龍館。

廿九日（水） 晴。午前七時発車帰京。此日稍涼。○至史局。石橋神戸市長至。

三十日（木） 晴。此日借編輯所文庫、格納藏書。掃除書楼。至史局。此夜拉良・康二兄至東洋軒、喫晚餐。○小牧健夫君至。

卅一日（金） 天長節 晴。○内子与良兄訪西保輔君。予自奉職内廷二年于茲。歲月逾邁、自愧無功。当竭誠策駑、以図涓埃之報也。

九月

一日（土） 晴、熱。○通常登省。午前十一時五十分、在食堂地大震、火災尋起。○午後二時公退、徒步、四時帰宅。内子与良・康二兄自三越帰宅。家慈無恙在庭上。此夜地屢震、火災益大。○宇佐美君之囑。河内君至。大震。

二日（日） 晴、火熱益熾、至夜不滅、爆音頻起。○此夜訛言鮮人来襲、老少皆集邸園。予亦奉家慈登山。既而帰宅。戒嚴令。土屋大夢避難而至。

三日（月） 晴。早天登省、草令旨。再至大臣官相官舎。午後四時公退。○宮内省執事務於庭上。○謠言紛出、自警团起。

○訪松方・山名・小牧諸邸。児玉友介・西保輔至。

四日(火) 晴。○瀧君避難於島津公邸內空屋。○近藤吉太郎自横浜避難而至。与瀧君相遇。

五日(水) 晴、驟雨。○賃自働車而登省。瀧川亦至宮內省。歸途至帝國旅館、訪東朝社員、托郵信於飛行機。餘震。

六日(木) 晴。○弔問東久邇・閑院・山階四宮邸、又訪島津兩公邸。歸途午飧風月堂。○近藤吉・小山兩家安全報至。因訪高輪南町持田氏邸。○土屋君西歸。

七日(金) 晴。○至史局、又訪松公邸、路遇急召。即登省、晤宮相、有草詔之命。又訪 餘震稍微。

八日(土) 晴。○在家、草詔。午後二時、携擬稿乘仿車、登省。借自働車、訪宮內官舍。五時歸家。

九日(日) 晴。○午前八時、乘宮廷自働車、至宮相官舍。尋登省、呈覽詔草。公退後、訪東京朝日於帝國旅館。此日辰井梅吉君來訪。此夜大雨。○ 谷山君來訪。

十日(月) 雨、涼。○至史局。成斎遺稿校了。

十一日(火) 晴。○至史局。

十二日(水) 晴。○登省。公退、皆乘車或徒步。

十三日(木) 晴。○至史局。康也・良正乘船、由品川歸大阪。

十四日(金) 雨。○至史局。高崎第十五聯隊、宿泊編輯所二十一名。早川君至。

十五日(土) 風雨。○登省。有草撰政殿下御詞。

十六日(日) 新霽。○登省。公退途上、与原田生相遇。訪辰井君於東朝社。夜買綿布及褲子。

十七日(月) 晴。○至史局。前田先生碑銘脫稿、頒贈諸友求批正。康也・良正着大阪。

十八日(火) 晴。至史局。

十九日(水) 晴。○登省。

二十日(木) 晴。○至史局。此日叙正五位。吾家自慈信公至予二十七世、叙位以予為始。

廿一日(金) 彼岸 晴。○至史局。

廿二日(土) 社日 晴。○登省。拝受勲記、至御車寄、記名伏謝。

廿三日(日) 晴。○朝起、赴鎌倉松方公、共午餐、尋訪坂本・兼坂・田尻・松村・中田諸氏宅。又觀島津・松方二家倒壞之狀。歸途与原田生邂逅。

廿四日(月) 秋季皇靈祭 秋分 雨。○乘自動車至宮相官舍、与萩野博士會商。尋同登省、草奉告神宮宣命草案。又至宮

相官舎、事了而帰。風雨未已。忡々不能寐。此夜招飲瀧・木村二君。

廿五日（火）晴。○登省。此夜正值中秋、月色殊佳、天無纖翳。晚餐後与内子訪瀧君。瀧君以此日卜居上大崎中九四

四四。

廿六日（水）晴。○登省。午餐後公退、至七階樓商店、買

物而帰。晚餐後与内子訪瀧知覧君、不遇。乘月散步、又訪木村君、献綿布十着。（拉泰子而登省）。

廿七日（木）晴。○至史局。○午後台命俄至。因登省、読宣命草案。晩飯後訪渡邊健一。○知覧健彦至、不遇。此日贈十金於中田中将。

廿八日（金）朝雨、午霽。○至史局。遣使鎌倉、贈物於兼坂・

田尻・松村。○内弟策次至。

廿九日（土）晴。○登省。

三十日（日）晴。○午前九時出門、与竹崎生同觀災後市況、遂拝先師墓。篠崎都香佐君至。

十月

一日（月）曇後晴。○至史局。

二日（火）曇。○至史局。地震三回。○小牧君至。晚餐後

与内子訪高崎從弟。橋本夫人至。

三日（水）晴。○登省。宮内省賜慰問金貳百九円。公退途次、為家慈購葡萄酒三瓶而帰。○内子与児玉夫人出門、觀災後狀況。晚餐後散策。此夜強震。

四日（木）晴。○至史局。与有馬・梅園二君訪池田邸。吉田銳雄君自大阪至。敦妹至。

五日（金）晴。○伴吉田君至文部省、尋至帝国大学。予則訪谷山君、又訪岡田君家。午後二時至上野精養軒午餐。博文堂原田夫婦至、不遇。此夜喜多君至。○時教帰家。

六日（土）雨。○登省。吉田君拝觀宮城。○内子至大丸。○時教始出社。三時公退、至洋服店。論語義疏篆文題署成。

此日間暫停大礼服。

七日（日）小雨。○吉田君赴仙台。

八日（月）晴。○至史局。

九日（火）至史局。

十日（水）曇。○登省。瀧君至、借美術叢書二十帙、及宋史藝文志而去。

十一日（木）至史局。

十二日（金）曇小雨。至史局。○山口善助告別式、中山孺

人告別式。弓削田至。訪市村圭卿。内弟栄助至。

十三日(土) 晴。○岡野文相訪問。登省。

十四日(日) 庚申 雨。○在家。栄助西帰。

十五日(月) 晴。○至史局。岡野文相手書至。訪萩野礼卿。

十六日(火) 晴。○至史局。覆大阪磯野君。

十七日(水) 神嘗祭 晴。○在家、草詔案。午后三時与内子

訪弓削田孺人之病。

十八日(木) 甲子 晴。○登省。理髮。有宮内省慈善市。

十九日(金) 晴。○岡野文相訪問。田中柳江至。

二十日(土) 晴。○登省。午後三時赴黒木欽堂靈別式。訪

谷山初七郎。坂元孺人自鎌倉至。

廿一日(日) 晴。○精神振作詔擬稿成。終日在家。羽生

子至。家慈・内子与坂元孺人赴木村君晚餐。此日八二度、

奇熱異常。月色極好。

廿二日(月) 晴。至史局。

廿三日(火) 靖国神社大祭 晴。○至史局。

廿四日(水) 晴。○訪岡野文相、後又訪大久保君。登省。

廿五日(木) 晴。○至史局。桜泉先生一年祭、展青山墓。

○帰途訪坂田君・大久保君、不遇。

廿六日(金) 雨。○至史局。此日訪大久保君。

廿七日(土) 晴。○登省。赴佐藤六石之約、以開以文会也。

訪岡野文相、有修正詔草之囑。以文会。

廿八日(日) 晴。○史局。大学生福田某依六石介紹来、請

研究楚辭。

廿九日(月) 晴。○至史局。土屋君至。福田生至。

三十日(火) 晴。○至史局。終日在家、草詔。河内君至。

瀧君至。○時教帰小山。

卅一日(水) 天長節祝日 晴後風雨。終日在家、草詔案。谷

山初七郎至。時教自小山至。

十一月

一日(木) 晴而奇温如夏。訪岡野文相。○登省、牧野宮相

病不遇。○久木田・木村之二君至。○梅園君至。午後九時、

拉泰子自品川乘車西下。

二日(金) 晴。○午前十一時至大阪、岡君出迎、伴泰子

帰家。予至後醍院、与松山君同午餐。此夜開上野君歡迎

会於鶴屋、予亦赴焉。

三日(土) 晴。○午前十時拝桃山陵、至京、訪内藤炳卿午餐。

訪狩野子温不遇。帰阪後、与後醍院君同会食梅月。

四日（目） 晴。○久間君至。午前懷德堂堂友会発会式。午後記念祭。晚赴鶴屋。○午後九時五十分乗車帰京。懷德堂記念会。

五日（月） 晴。○午後一時帰宅。谷山君将来訪、以疲憊辭。

六日（火） 晴。○訪岡野文相。登省。至史局。林氏至、納采。

七日（水） 小雨。○登省。永田君至、不遇。訪谷山君於一高。招松下夫婦、与内子会食於東京駅食堂。訪永田君於駅館。

八日（木） 立冬。晴。○至史局。永田君来訪。午後訪岩崎君、不遇。○訪弓削田母堂之病。晚赴大久保君之約。

九日（金） 晴。○至史局。此日納采。

十日（土） 晴。○登省。精神振作詔書煥發。樺山書記官長至。此夜大雨。

十一日（日） 晴。○松下婦多美与谷山熊雄挙婚儀於上野精養軒。午後二時出門、午後十時帰宅。媒妁文学博士斎藤阿具也。木村君至。

十二日（月） 雨。○至史局。松下夫婦訪谷山氏、午後十時帰宅。以母病將以明朝帰郷。

十三日（火） 晴、風。○松下夫婦帰郷、午前七時四十分送至東京駅。登省。至史局。晚招谷山熊雄・婦多美開小宴。河内中将夫妻為陪賓。○柴田維新編纂局長来訪。

十四日（水） 晴。○登省。訪岩崎君、不遇。○訪長野直彦、不遇。晚間長野直彦至。

十五日（木） 晴。○至史局。訪松公不遇。○訪篠崎医師。笹川生至。近火。晚訪瀧君。

十六日（金） 晴。霜。○至史局。正午長野直彦邀家慈及予并内子、午餐于興津庵。遂至帝國旅館、觀天勝奇術及舞踊京人形。

十七日（土） 晴後曇。○登省。午後二時安田善雄君告別式。○児島博士宅以文会。岡野文部大臣至、不遇。

十八日（日） 雨。○木村君至。午後二時訪松方老公、帰途過小牧家。晚飯命牛鍋而一醉。

十九日（月） 曇且小雨。○至史局。知覽君来、贈菊花。山口平吉少将来訪。

二十日（火） 晴。○至史局。遣使于市村圭卿。神道碑二篇校訂卒業。拝漢書進講候補。内子訪谷山氏。

廿一日（水） 晴。○登省。早退。邀山口少将、早川・木村

両家扶及河内中将晚餐。

廿二日(木) 晴。○登省後、至史局。喜多貞吉至。

廿三日(金) 新嘗祭 晴。○午前七時十六分自品川乗車游駿之小山、内子從焉。午後九時半帰宅。此日地震頗強。

廿四日(土) 晴、後雨。○登省。午後五時赴伊集院・山之内二大臣之約于東京駅。成田軍平至。

廿五日(日) 晴而甚暖。午前訪安井朴堂、又訪成田軍平・羽生俊助、並不遇。八板千尋・原田悟朗至。時教赴河内時申宅。

廿六日(月) 晴。○至史局。焼肉独酌。

廿七日(火) 曇。○至史局。木崎君至。午前訪桑原氏於国学院。篠原医師至。婦多美至。贈酒於児玉。原田悟朗至。拉時教至洋服店。招写真師撰先師碑文。

廿八日(水) 曇後雨。○登省。与永田君同訪牧野宮相。宇

佐美東京府知事至。岡野文相至、見贈銀瓶一对。早川氏至。尾上夫人至。

廿九日(木) 霽。○至史局。午後訪松方公、約明日与東京府知事同訪。

三十日(金) 霽晴。○至史局。午前八時訪岡野文相。松方公風氣。○午後訪市村圭卿、不遇。○永田磐舟至、不遇。

幼婢初江帰郷。家慈風氣。

十二月

一日(土) 晴且寒。○登省。此夜招岩崎愚庵・寺田望南及土岐・中村四君飲于小寓。

二日(日) 晴。○訪市村圭卿午餐、与池内宏始相見。武田信熙至、晚餐。

三日(月) 曇、夜雨。○至史局。原田博文堂至、晚飯。発電報於田中常憲。川路利恭・谷山初七郎二君至。

四日(火) 晴、初氷。○至史局。訪松方公。内子訪弓削田尾上夫妻至。○知覧健彦至。田中答電至。

五日(水) 晴。○登省。提出岩倉・島津二公神道碑考定本。桜井夫人至。○喜多橘園至。○尾上夫婦還豊橋。

六日(木) 雨。○至史局。午後五時半赴早川君之約。此夜八板千尋至、留宿。此日至渋谷、打常磐松碑。

七日(金) 曇且雨。○至史局。午後五時訪川路翁、尋与内子同訪谷山氏、晚餐後辞去。

八日(土) 霽而暖。○登省。内子訪瀧氏家。訪寺本氏、觀旧書。川路利恭・俵孫一二君訪予於内大臣府。敦子至。

晚赴大山君之約。

九日（目） 晴。○午前九時訪島津男爵、夫（治子）^マ嘱菊花

画賛。大江理三郎・山口治雄・谷・緒方竹虎四人至、共午餐。

阪本清子夫人自鎌倉至。

十日（月） 小雨。○至史局。夜談論衡。牧野宮相電話、嘱

改島津公碑文中字句。

十一日（火） 曇。○至史局。此日有臨時議會開院式。

十二日（水） 雨。○登省。修正神道碑文。

十三日（木） 曇。○至史局。樋口銅牛來訪。

十四日（金） 晴。○至史局。坂元清子來訪。菊花画賛成。

午前訪寺田翁買旧書。此日編輯所有伝達賞与之事。

十五日（土） 晴。○登省。午後三時至東洋文化学院。○此

夜谷山父子一家四人応招而至。此日造醴祭、氏神不動明王。

以文会則不往会。牧瀬直藏來。

十六日（日） 晴且暖。○終日在家。内子与泰子出門至三越。

庄野君・上妻君並來訪。此夜招萩野・市村・島田三君小集寓居、

聊以餞感耳。

十七日（月） 甲子 晴。○至史局。午後与河内君同至牛込円

福寺、列上妻惣太郎及二子政雄・春雄葬儀。○内子訪松村

幾子弔問。牧瀬直藏來借金、堅拒叱去。

十八日（火） 晴。○至史局。内子訪鎌倉姨母。郷里上中人
大川幸也來、年二十二。

十九日（水） 晴而寒。○午前九時奉送聖駕幸沼津。○登

省。仁田事務官來晤、始知牧瀬直藏之詐。○至平塚村、

告直藏以帰阪之事。○訪望南翁。○此日拜受恩賜。文化協

会書至。

二十日（木） 雨。○至史局。川田瑞穂至、買書約成。赤坂

字社三浦副主事至。訪上妻豊彦、又訪寺田望南。

廿一日（金） 晴。○至史局。終日在家。牧瀬生見檢束。高

崎能樹至日比谷警察署。此夜上妻豊彦・渡辺健一夫妻至。

廿二日（土） 曇後雨。○登省。本多書記官來乞公文刪正。

公退後至青山教会、列子島友三郎葬儀。此日大川生至、招

篠崎君。招兒玉君小飲。日高少將至。

廿三日（日） 冬至 晴。○瀧川君自仙台至、供酒食。小池未

亡人至。内子与时教至三越。午後揮毫。此夜太川生至、招

篠原君。鮫島末子及笹川満真夫婦至、福西至不遇。稻村少

將至。

廿四日（月） 晴。○至史局。夜羽生能彦与名越生俱來、能

彦留宿。此夜訪兒玉君与篠崎君晤。

廿五日(火) 晴且寒。○至史局。訪早川氏、請訂正增俸人名。
晚開親交會於俱樂部。武内宜卿至。

廿六日(水) 晴而暖。○登省。宇佐美知事來訪。重野述夫
來話。康哉自熊本歸京。○高崎能樹・牧瀬善助至。

廿七日(木) 晴。○至史局。皇太子殿下行啓議院開院式、
凶漢兇銃中車。急遽參内、候天機。午後三時上野陽一・河
内重女結婚。

廿八日(金) 晴。○至史局。至本邸事務所、御用仕舞。原
田悟朗至、児玉・日高二生至、兼坂少將至、共午餐。

廿九日(土) 早晴嚴霜。○午前訪寺田望南翁。午後參内、
候天機。恩賜白絹及昭憲皇太后御集。原田大觀至。至本邸。
三十日(日) 晴而寒。山名次郎及小牧夫人至。木崎至、同
晚餐。喜多貞吉至。

卅一日(月) 晴。○終日在家。紀災二十絶、及歲晚偶作成。
家慈・内子・康也・泰子及能彦團欒送歲。

大正十三年

一月

一日(火) 四方拝 晴。○家慈強健、一家無恙、同酌屠蘇、
共祝平安。午前參内拝賀、尋至島津公・久邇宮・松方公及山名・
小牧兩家、賀年。○上妻生來。牧瀬自西京至。清子受大命。
二日(水) 晴。○原田大觀來賀。午後与内子同至谷中、展
成斎・篁邨二先師墓。篠原医至。

三日(木) 晴。○午前九時四十分賢所參集所集合、參列于
元始祭。摂政殿下親祭。知覽・弓削田二君至。此夜読詔勅
謹解訂正。清浦子辞大命、不允。

四日(金) 晴。○至史局御用始。正午帰家。読詔書謹解
稿。河内夫婦・宮浦要・榎本安彦夫婦至。二重橋畔鮮人携
爆彈者、見逮捕。

五日(土) 新年宴会 晴。○終日在家、修正詔書謹解稿。内
子拉康也出門、參詣水天宮。河内久彦夫妻・宮浦要辞去。
晚赴児玉君之約。此夜能樹至。

六日(日) 小寒 晴暖。○在家。原田大觀至、携詔書謹解稿
而西帰。此日熊毛郡友会開于俱樂部。会者五十四人。

七日(月) 晴且暖。○登省。托子温進講案於大谷事務官。

午後至史局。此夜従弟能樹及喜多橘園・谷山熊雄夫婦至。康也赴熊本高校。清浦内閣親任式。

八日（火）晴。○至史局。内子訪河内夫人。

九日（水）晴。○登省。午後二時公退、与内子至商店、買毛布。此日宮内省使至、告経筵開講之期。

十日（木）晴。○至史局。川田瑞穂至。谷君至。

十一日（金）晴。○文化学院始業。種痘。至史局。此日風氣。

十二日（土）晴。○微恙缺勤。倩安富生繕写。篠原医師来診二回。以文会。

十三日（日）晴。○終日養病不出門。安富生至、嘱繕写。篠原医師来診。瀧君至、借史記而去。安井朴堂至。

十四日（月）晴、暖甚。○終日在家。午前十一時狩野君山来宿。梅園君至、嘱繕写。瀧君至。

十五日（火）晴。○昨夜至曉奇暖異常。午前五時五十分地震。此日始浴。

十六日（水）晴。○午前八時出門参内。十時入鳳凰間、上経筵。三人講畢、賜餐、又賜物（白羽二重）。此夜招瀧・小島（祐馬）二君小宴。曉有近火。御講書始。

十七日（木）曇。○曉有近火。頭岑々痛、終日在家。君山赴外務省。晚赴節堂之約、予辞不往。

十八日（金）晴。○在家養病。頭痛岑々。枢密院書記官村上恭一來、嘱仲小路君墓志。狩野君山与小島文学士西帰。兒玉君俄病、篠原医来診。

十九日（土）晴。○在家養病。有馬君至。篠崎医生来診。家慈種痘、善感発熱。安井朴堂至。桜井忠剛君至、晚餐、叙闊。

二十日（日）晴。○終日在家。有馬君至。内子訪木村君。廿一日（月）晴而暖。○終日在家。内子拉泰子参候久邇宮、

謁良宮。○川北未亡人至。工藤一記君至。喜多君至。大川六子自鹿兒島至。

廿二日（火）晴。○登省。為宮相、草新聞原稿。○与荒木総長晤。河内君・坂田君至。瀧君至。篠原医師至。

廿三日（水）晴。○終日在家。繕写詔書謹解序文。此夜八坂千尋至。

廿四日（木）晴。○午前九時半訪宮内大臣、尋登省、訳注表牋。午後四時公退。篠原医至。内子訪弓削田氏北堂病。

廿五日（金）晴。○至史局。遣安富君於宮内省。媳婦及紹自小山至。別所彰善・成田軍平至。媳婦携時

廿六日（土） 晴。○午前八時三十分、与瀧君同乘自働車、参集賢所、参列東宮慶典。媳婦媳婦詣久邇宮邸。此夜雪。

廿七日（日） 雪霽。○午前十時奉送東宮兩殿下於東京駅。

廿八日（月） 晴。○登省。拝觀賀表賀牋之類。便乘宮相自働車、至東京駅。

廿九日（火） 晴。○午前九時、与瀧君同乘自働車、参内拝賀。尋祇候赤坂離宮久邇宮。

三十日（水） 晴。○登省。

卅一日（木） 晴。○午前十時半、媳婦及孫時紹婦小山。予送至駿河而別、遂至興津訪松方公之病。此夜投宿水口屋（一碧樓）。

二月

一日（金） 晴。○電話云、萩野礼卿病亟、因訪松方巖、正作兄弟告別。午前九時五十分東歸、四時自東京駅訪礼卿。聞昨夜不起。遂徹夜艸墓志。

二日（土） 大雪。○午後八時歸家。原田悟朗至、草謹解序。代岡野前文相也。

三日（日） 霽。○改刪礼卿墓志。午後至萩野宅、經紀喪事、夜分歸家。日高慶輔至。

四日（月） 節分 晴。○早起、喫飯。午前九時出門、至萩野宅、参列棺前祭。午後一時至三時、行永別式。夜分歸家、嘱市村圭卿書墓志。

五日（火） 立春 晴。○至史局。晚飯後、訪節堂博士、不遇。既歸家、博士來訪、嘱以銅版之事。

六日（水） 晴。○登省。公退、歸途至晚翠軒買筆十枚、又買小鴨而歸。一醉而臥、熟眠至曉。此夜節堂使至。

七日（木） 晴。○至史局。方竹使至。小野田生來史局、編纂照国公家集。遣使圭卿宅。晚飯後訪節堂博士。

八日（金） 暴風雨。午前十時漸靜。奇暖。午前九時出門、至東洋文化学院、始講屈原伝。午後至史局。○赴河内君之約。

九日（土） 晴、至晚而雨。○登省。宇佐知事使至。午後訪文求堂。午後四時赴亡友礼卿十日祭。歸途逢雨。

十日（日） 雨。○終日在家讀書。晚招早川・木村・児玉三君小飲。

十一日（月） 紀元節庚申 霽。○午前九時、与瀧博士同乘参集賢所、参列祭典、尋参内拝賀。午後一時赴大東文化学院開院式。是日時堯公見贈正四位。

十二日（火） 小雨。○至史局。午前十時狩野君山來宿。青

山良敬至。午後四時赴偕樂園之約。会者狩野・安井・市村・児島・佐久節・龍・宇野・中村・塩谷・島田・小柳併予十二人。小石。伝通院前後樂園午後五時。

十三日（水） 霽。○参候北白川宮、尋登省。内閣属浮洲福雄来質疑。此夜庄野俊平至。君山赴瀧君。

十四日（木） 晴。○至史局。青山某来告、十七日図書交換会、齋久我侯藏書。此夜節堂来話。

十五日（金） 晴。○午前十時文化学院講義。午餐後至史局。狩野君山西帰。

十六日（土） 晴而冷。○登省。午後一時参列杉浦天台道士葬儀。午後六時島津公晚餐会、小幡鹿兒島県知事・大久保・早川併予四人。原田悟朗至。本邸晚餐会。

十七日（日） 晴而冷。○午前九時半拉内子至図書交換会、遂游浅草・上野。午後五時赴斯文会之約。本邸晚餐会。華族会館内斯文会午後四時卅分。

十八日（月） 晴。○至史局。午後七時、招上野・辰井二君晚餐。瀧・宮森二君至。此日至本邸、議囑託員旅費之事。

十九日（火） 晴。○至史局。午前九時香取氏電話、託礼卿墓志。仍用圭卿繕写。礼卿廿日祭。

二十日（水） 晴。○登省。刪正懷德堂考。晚飯後訪川北米子。由高時義申郷里伴小婢至。

廿一日（木） 晴而有風。○至史局。丹波与謝郡長田島朔次郎至、不遇（駒込富士前町二大久保太郎方）、日高君寓在麴町富士見町一ノ七松葉館。寄書、約明日夕飯（婢至）。川北一年祭。

廿二日（金） 曇。○至文化学院。午後至史局。日高君昨日帰任、田島君今夕帰任。因与内子至東京駅、送田島君。此日市来正哉至。日高時義至。

廿三日（土） 曇。○登省。午後二時公退、与内子同訪萩野・岡野・谷山三氏宅、過文求堂。帰途喫飯于竹葉支店。此夜寒甚。廿四日（日） 曇後晴。○終日在家、讀史記屈原伝。○午後作字。上妻巡查至、供飯。

廿五日（月） 晴、曉霜如雪。○至史局。此夕招河内中将及令夫、並兒玉・日高二子小飲。能樹夫妻至。

廿六日（火） 晴。○至史局。兒玉利堯・泉八十男至。紹介東郷茂徳、囑日高時義旅券。東郷君電話云、旅券事成。

廿七日（水） 晴。○登省。参候赤坂御所、拝觀賀牋。○訪大久保君。午後八時半発至静岡、与早川君同行、宿大東館。

廿八日(木) 曇。○午前五時發靜岡至興津、問松方公之病。
午後十時半帰宅。

廿九日(金) 晴。○文化学院講義。午後登省。○午後二時

奉迎東宮兩殿下還啓。午後八時十分送河内君、訪永田君於
駅館。礼卿三十日祭。二十九日午後五時、日高大将夫人至。

三月

一日(土) 小雪。○登省。午後問松公危篤、驅自働車至。

三田・樺山・平田・阿部諸氏亦至。薄暮帰宅。

二日(日) 曇寒。○午前十時至松方公邸。公病稍間、衆皆

喜之。午後三時訪小室翠雲、与安井・佐藤・館森諸君、会
議刻言之事。上妻巡查至。

三日(月) 晴而寒。○至史局。内子訪鎌倉姨母。

四日(火) 晴。○至史局。午後講唐鑑。此夜赴燕樂軒之

約、錢飲服部・市村・山口(察常)游支那。唐鑑講義。○

午後五時燕樂軒。

五日(水) 曇。○登省。

六日(木) 晴。○至史局。

七日(金) 曇。○午前文化学院講義。午後至史局。

八日(土) 晴。○登省、早退。此日以文会、設席寓樓。勺水・

袖海・朴堂・劍堂・児島博士・六石来会。○此日伝猷野山
金石図説。以文会。

九日(日) 晴。○午前原田悟朗与武田工八同至。入田学士

至。午后与内子出游、訪西原城官寺、展桂山・柳沢・菫庭等墓。
游上野精養軒、飯于麻布大和田。帰途訪弓削田北堂之病。

十日(月) 晴而風。○至史局。下園生至。午前博文堂主人

及悟朗至。午后四時訪望南老人、留飲。此夜狩野子温至。

十一日(火) 晴。○至史局。福田教授至。午后三時内藤炳

卿至、供飯共談、至夜半而別。

十二日(水) 晴。○登省。原田父子至、伝猷詔書謹解。午
後四時於宮内省開講論語。論語。

十三日(木) 晴。○至史局。午前九時原田大觀至。至事務

所、与早川君面晤。

十四日(金) 晴。○午後十時文化学院講義。午後一時半至

牧野宮相官邸、聴青木子独国談。楚詞宮相邸午後一時半。

十五日(土) 晴。○登省。原田大觀至、木村君亦至。嘱原

田改装孔子聖蹟図。午後五時招内藤炳卿於偕樂園。午後五時。

十六日(日) 晴。○終日在家。原田・武田同至。午後五時

出門、拉康児至東京駅館、晚飯。瀧君至、不遇。午後二時青

山斎場田氏葬儀。

十七日（月） 晴風甚。○至史局。午後一時半与伊集院君同至博物館。又訪北原大助、又訪瀧君不遇。

十八日（火） 彼岸 晴。○至史局。午後四時講唐鑑。原田悟朗至。安富榮婦京。○使八坂、訪瀧君。

十九日（水） 晴。○登省。華頂宮薨、因停講。午後四時与上野大膳頭同参候華頂宮。○山之内君使至、草墓志。論語。

二十日（木） 杜日 晴。○至史局。長崎県立図書館長永山時英君至。松雲堂至。答玉利君書、又与宮川生言。関次官見招、

登省。唐鑑。

廿一日（金） 春季皇靈祭 春分 晴。○以風氣杜門謝客。○

午後作字。牧瀬直藏来告別。瀧君至。宮本・児玉・立石三氏亦至（雨）。

廿二日（土） 霽。○登省。博忠王墓志成。○上野大膳頭贈烟草二匣。○此夜訪小牧君。夜雨雷鳴。

廿三日（日） 晴。○午前九時拉康兒至神田、過書肆購多紀氏遺書。午後一家撮影。弓削田姪女亦与焉。此夜篠原医師結婚、与内子同列席末。

廿四日（月） 晴。○有公務、登省。訂正華頂宮墓志。康兒

遊小山。宮中喪二日。此夜木村君至。

廿五日（火） 晴。○参候華頂宮、署名弔唁。至史局。疲甚帰家。羽生伝蔵二子至。慶典表牋集編纂、始于今日。

廿六日（水） 小雨。○登省。午後四時講論語、至賢々易色章而止。康兒自小山帰宅、平山彬贈鶏卵。論語。

廿七日（木） 曇、小雨。○至史局。早川君至。致書長崎永山英。雲松堂至不遇、購十朝聖訓及中庸考。

廿八日（金） 小雪。○至史局。山田為栄幅来。篠原医至。午後与早川・大山・木村・児玉・本多・坂田・有馬、至晚

翠軒小飲。疾風寒甚。購百衲本史記。

廿九日（土） 霽尚寒。○登省。草学習院告辭二通。公退後、訪大久保君、不遇。訪光吉・田中二子、並不遇。晚至三河屋、

列選良青年歡迎会。此夜修正伏見宮令旨。

三十日（日） 晴稍有風。○此日拉泰子及姪女真澄、出遊上野動物園、飯于精養軒。至浅草屋買書、遂遊向島、謁亀戸

天神祠、焚香被服廠納骨堂。晚飯于橋善而帰。頗覺快然。

卅一日（月） 晴。○至史局。池田生帰所、及第七高之試云。此夜上妻巡査伴妻子来晤。夜九時拉康哉散策五反田。此日

国学院大学之聘、拒之。

四月

一日(火) 晴暖。○至史局。木村君至。大久保君至。嘱方

竹繕写大學縁起。午後四時講義。此夜喜多貞吉至。唐鑑。

二日(水) 晴後小雨。○登省。午後四時至五時講。此夜冒

雨訪竹内可吉。論語。

三日(木) 神武天皇祭 霽。○午前九時半賢所參集。六石

至、不遇。午後一時拉康哉游井頭公園。知覽君及鯨島政義至。

井筒至、不遇。

四日(金) 晴。○至史局。此夜鯨島政義・川北生至。

五日(土) 霽。○登省。讀離騷。池田生赴鹿兒島。未刻本

刊行會。

六日(日) 曇。○早起、自五反田至池袋。午前六時五十分

發池袋至仏子、遊円照寺。午餐西久保 平宅。遂登飯能山、

遇雨而歸。同行者有馬・安富・林田・那須及康哉・木村兄

弟俱父。○采助至。

七日(月) 小雨。○午前九時至牧野宮相官舎。十一時至史

局。午後晴。采助歸岐阜。

八日(火) 晴而曇。○至史局。訪円照寺古碑記成。大山家

扶至。此夜大雨。

九日(水) 晴。○登省。午後四時講義。内子訪鎌倉叔母。

禁苑桜花始開。論語。

十日(木) 晴。○至史局。散策。藤野近昌及柙屋主人夫婦

並至。媳婦携孫時紹來省。此夜赴山之内君之約。与藤井近昌

約午前。

十一日(金) 庚申 清和。○午前八時出門、參集賢所、參列

昭憲皇太后十年祭。午後侍讀第一公子。此夜与岡島・篠原

二君會食精養軒。昭憲皇太后十年祭。

十二日(土) 曇。○登省。午餐、赴池袋日下勺水宅。早退、

訪亡友萩野礼卿宅、觀墓志。此夜赴君格之約。文會、君格招飲。

十三日(日) 雨。○午前九時木村君至。午前十時半、奉

家慈与内子・媳婦及泰子・時紹至上野、觀桜花。午餐精

養軒。渡邊盛衛至、留飲。

十四日(月) 霽曇。○至史局。午後四時侍讀公子。見島津

公。日高慶輔至、留飲。此夜与内子散策、媳婦遊上野。論語。

十五日(火) 甲子 晴。○至史局。午後四時講義。唐鑑。

十六日(水) 雨。○登省。午後四時講義。冒雨至東京駅。

論語。

十七日(木) 晴。○至史局。

十八日（金） 晴。○文化学院講義。午後至史局。侍読公子。

楚詞、唐鑑、文化講演九時至十一時。

十九日（土） 晴。○登省。弔伊藤公母堂之喪。木村君至。

二十日（日） 晴。○早起、与木崎・梅園・林田・安富四君

再遊円照寺。此夜知覧・上妻二氏至。

廿一日（月） 晴。○以病不出。午後四時侍読公子。此夜瀧

君至。夜雨。

廿二日（火） 霽。微恙不出門。

廿三日（水） 晴。微恙在家。読楚詞。下午作字。論語。

廿四日（木） 晴。○登省。午後四時講論語。晚赴関屋次官

之約、至新宿御苑。

廿五日（金） 曇而有風。○文化学院講義。午後至史局。下

午四時侍読。

廿六日（土） 晴。○登省。午時至東京朝日、午餐。尋至昌平

坂、参列孔子像奉安式。

廿七日（日） 晴。終日読書。此日伊集院彦吉君薨。晚与木

村君同至其家、弔之。

廿八日（月） 晴。○至史局。午後侍読公子。

廿九日（火） 晴。○至史局。末川清香至、見嘱周山遺稿序

文。

三十日（水） 靖国神社大祭 晴。○登省。午後二時至青山

斎場、弔伊集院男爵之葬儀。午後四時講。論語。

五月

一日（木） 曇。○至史局。山田為榮至。

二日（金） 八十八夜 曇。○午前文化学院講義。至史局。午

後長公子孝経開講。

三日（土） 雨。○登省。午後四時赴精養軒之約。精養軒。

四日（日） 曇。○終日在家作字。梅岡君至。原田・武田二人

至。

五日（月） 曇。○至史局。黒岡中将至。早川家令至。午後

四時侍読。榎山寡婦人至。

六日（火） 立夏 曇。○至史局。唐鑑。

七日（水） 論語。

八日（木） 唐鑑。

九日（金）

十日（土）

十一日（日）

十二日（月）

十三日（火）
十四日（水） 論語。

十五日（木）

十六日（金）

十七日（土）

十八日（日） 仙台。

十九日（月）

二十日（火） 唐鑑。

廿一日（水）

廿二日（木） 唐鑑。

廿三日（金）

廿四日（土）

廿五日（日）

廿六日（月）

廿七日（火）

廿八日（水）

廿九日（木）

三十日（金）

卅一日（土）

（本稿は日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B））「日本近代人文学の再構築と漢学の伝統―西村天因関係新資料の調査研究を中心として―」（課題番号21H00465、研究代表者竹田健二）による共同研究の成果の一部である。）